

# 三日市 A 遺跡 3

2012

石川県野々市市教育委員会

# 三日市A遺跡3

2012

石川県野々市市教育委員会

## 例　　言

- 1 本書は、三日市A遺跡(第2・8・19次)の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は石川県野々市市三日市町地内である。
- 3 調査原因は野々市市北西部土地区画整理事業に伴うものである。
- 4 調査は、野々市市北西部土地区画整理組合の依頼を受けて野々市市教育委員会が行った。
- 5 現地調査は平成13・15・17年度に実施した。面積・期間・担当者は以下のとおりである。

平成13年度調査(第2次)	期　間	平成13年10月15日～平成13年12月25日
	面　積	2,200m <sup>2</sup>
	担当者	徳野裕子　野々市町教育委員会文化課　主事
平成15年度調査(第8次)	期　間	平成15年4月7日～平成15年10月7日
	面　積	3,300m <sup>2</sup>
	担当者	徳野裕子　野々市町教育委員会文化課　主事
平成17年度調査(第19次)	期　間	平成17年7月6日～平成17年11月23日
	面　積	2,506m <sup>2</sup>
	担当者	横山貴広　野々市町教育委員会文化振興課　専門員
- 6 出土遺物の整理は平成15年度、平成16年度、平成21年度に野々市市教育委員会が行った。
- 7 報告書の刊行は平成23年度に野々市市教育委員会文化振興課が実施した。担当分担は以下のとおりである。

第1章　第2章　第3章　第4章	徳野裕子
第5章	横山貴広
- 8 現地調査、本書の執筆にあたっては、野々市市北西部土地区画整理組合、柿田祐司の協力を得た。  
(敬称略)
- 9 本書についての凡例は以下のとおりである。
  - (1) 方位は座標北と指し、座標は国土交通省告示の平面直角座標第VII系に準拠している。
  - (2) 水平基準は海拔高であり、(m)で表示する。
  - (3) 採図の縮尺は図に示すとおりである。また、写真図版における遺物の縮尺は統一していない。
  - (4) 出土遺物番号は、本文・観察表・写真に対応する。
  - (5) 上層図の注記の一部は、農林水産省農林水産技術会事務局・財團法人日本色彩研究所監修「新版標準土色帖」に掲った。
  - (6) 遺構名の略号は以下のとおりである。  
　　掘立柱建物(SB)、竪穴建物・竪穴状遺構(SI)、溝(SD)、土坑(SK)、小穴(P)、不明遺構(SX)
- 10 調査に関する記録と出土遺物は、野々市市教育委員会が一括で保存・管理している。
- 11 例言・本文中に記載されている野々市町の名称は2011年11月11日の市制施行に伴い現在は野々市市となっている。

## 目 次

第1章 調査の経過.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2章 遺跡の位置と環境.....	2
第1節 地理的環境.....	2
第2節 歴史的環境.....	2
第3章 第2次調査.....	4
第1節 発掘・整理作業の経過.....	4
第2節 調査の方法.....	4
第3節 遺構.....	4
第4節 遺物.....	9
第5節 小結.....	9
第4章 第8次調査.....	11
第1節 発掘・整理作業の経過.....	11
第2節 調査の方法.....	11
第3節 遺構.....	14
第4節 遺物.....	24
第5節 小結.....	26
第5章 第19次調査.....	33
第1節 発掘・整理作業の経過.....	33
第2節 調査の方法.....	33
第3節 遺構.....	33
第4節 遺物.....	33
第5節 小結.....	33

## 挿図目次

第1図 三日市遺跡測量区図 .....	1	第19図 出土遺物実測図 4 .....	30
第2図 野々市市位置図 .....	2	第20図 SB01平面図・断面図 .....	34
第3図 周辺の道路 .....	3	第21図 SB03平面図・断面図 .....	35
第4図 三日市A遺跡(第2次)遺構平面図 .....	5	第22図 SB04平面図・断面図 .....	36
第5図 SB01・SB02遺構図・断面図 .....	7	第23図 SB07平面図・断面図 .....	37
第6図 SK・SD・P・SX遺構図・上層断面図 .....	8	第24図 SB08平面図・断面図 .....	38
第7図 出土遺物実測図 .....	10	第25図 SB09平面図 .....	39
第8図 三日市遺跡(第8次)遺構平面図 .....	12・13	第26図 SB12平面図・断面図 .....	40
第9図 B区SB01遺構図・土層断面図 .....	15	第27図 SB09東辺ほか断面図 .....	41
第10図 C区SK02遺構図・上層断面図 .....	16	第28図 SB11平面図・断面図 .....	42
第11図 A区SB01・SB02遺構図・断面図 .....	17	第29図 SB12平面図・断面図 .....	43
第12図 A区SB02・SD遺構図・土層断面図 .....	19	第30図 SK01～05・09平面図・断面図 .....	44
第13図 A区SB03遺構図・土層断面図 .....	20	第31図 SK01～05平面図・断面図 .....	45
第14図 A・C区SK03～05遺構図・上層断面図 .....	21	第32図 遺構全体図 .....	47・48
第15図 A・C区SK03遺構図・土層断面図 .....	22	第33図 出土遺物実測図 1 .....	52
第16図 出土遺物実測図 1 .....	27	第34図 出土遺物実測図 2 .....	53
第17図 出土遺物実測図 2 .....	28	第35図 出土遺物実測図 3 .....	54
第18図 出土遺物実測図 3 .....	29	第36図 出土遺物実測図 4 .....	55

## 表目次

第1表 野々市市の遺跡 .....	3	第4表 挿立柱建物一覧表 2 .....	50
第2表 出土遺物観察表 .....	9	第5表 挿立柱建物一覧表一柱間寸法 1 .....	50
第3表 出土遺物観察表 1 .....	31	挿立柱建物一覧表一柱間寸法 2 .....	51
出土遺物観察表 2 .....	32	第6表 出土遺物観察表 1 .....	56
第4表 揿立柱建物一覧表 1 .....	49	出土遺物観察表 2 .....	57

# 第1章 調査の経過

## 第1節 調査に至る経緯

本書に収録の三日市A遺跡は野々市市三日市町・二日市町地内に位置する。当該地周辺は農地としての土地利用が主であり、開発を契機とする発掘調査はほとんど行われていなかったため、遺跡の分布の実態は不明瞭であった。しかし、近年の周辺の都市化に伴い、生活環境と宅地化の促進を目的とした野々市町北西部土地区画整理事業が施行されることが決定した。これを受けて施行区域内には埋蔵文化財存在の可能性が考えられることから、確認調査の必要が生じ、平成11年8月25日付けで野々市町産業建設部長から野々市町教育委員会教育長宛に土地区画整理事業区域内の埋蔵文化財の分布調査の依頼がなされ、平成11年8月31日付けで野々市町教育委員会教育長から野々市町産業建設部長宛に土地区画整理事業区域内の埋蔵文化財分布調査を行う旨の回答をした。これに基づき、施行区域65.4ha内に試掘坑を352箇所（うち337箇所試掘実施）設定し、平成11年9月27日～同年10月19日まで試掘調査を行った。その結果、以前より存在の確認されていた二日市イシバチ遺跡、新たに三日市A遺跡、三日市ヒガシタンボ遺跡、郷クボタ遺跡、徳用クヤダ遺跡が確認され、区画整理施行区域内には5遺跡が存在することがわかった。

本報告の発掘調査は県道二日市・徳用線築造に伴い行われた発掘調査で、築造予定地のほとんどが埋蔵文化財包蔵地範囲内であったことから、数カ年に渡り発掘調査を行っている。三日市A遺跡については第2次：平成13年度、第8次：平成15年度、第19次：平成17年度に発掘調査を実施している。



第1図 三日市A遺跡調査区図(1/5,000)

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

野々市市は石川県のほぼ中央に位置する。山海のない平坦地で、北東部は金沢市、西南部は白山市とそれぞれ接している。南北6.7km、東西4.5km、面積13.56km<sup>2</sup>の市域を有する。市域は靈峰白山を源とする県下第一級河川手取川によって形成された手取川扇状地の北東部にあたり、扇央部と扇端部の狭間に位置する。現在の野々市市は近世から明治大正期にいたる耕地整理開発により平坦な地形であるが、以前は微高地と微低地が混在する凹凸の多い地形であった。これは手取川から派生する多くの小河川が洪水や氾濫を繰り返すことによって島状地形がつくり出されたからである。野々市市の遺跡の多くはその微高地上に所在する。

本書で取り上げる三日市A遺跡は野々市市北西部に広がる広大な遺跡である。遺跡周辺は以前までは田園が広がる風景であったが現在では区画整理が進み、今まで広がっていた風景は大きく変貌を遂げている。

### 第2節 歴史的環境

三日市A遺跡の所在する手取川扇状地扇端部は縄文時代から中近世までの遺跡が数多く存在する地域である。ここでは三日市A遺跡周辺の遺跡を概観する。

縄文時代を代表する遺跡は国指定史跡の3御経塚遺跡が挙げられる。この遺跡は縄文時代後・晩期の大集落跡で、堅穴建物や環状木柱列、多彩な土器・石製品などが出土している。

弥生時代は農耕文化が定着する時代であるが、野々市市周辺では後期になってようやく各地で集落が増加していく。7二日市イシバチ遺跡をはじめとして、3御経塚遺跡、10三日市A遺跡などがある。

古墳時代に入ると再び遺跡数は激減する。1御経塚シンデン古墳や二日市イシバチ遺跡で前期古墳が確認されているのみで、集落についてもこの2遺跡のほかに上新庄ニシウラ遺跡程度しかなく、弥生時代後期とは比較しようがない少なさである。

奈良・平安時代には、手取川扇状地扇央部で政治勢力を背景とした39末松庵寺が7世紀に建立され、それに伴い、30三納アラミヤ遺跡・33粟田遺跡などの大規模な集落跡が急増する。

中世に入ると、手取川扇状地の更なる開発に乗り出す在地武士の林氏と富樫氏が台頭してくる。林氏は野々市市南部から白山市鶴来地区にかけて、富樫氏は野々市市東部の高橋川流域からその北方にあたる伏見川流域一帯にかけて地盤を築いていった。林氏が活躍する鎌倉時代に高橋川を天然の要害とした武士の居館跡である24扇が丘ハイゴク遺跡が扇が丘地内に出現する。

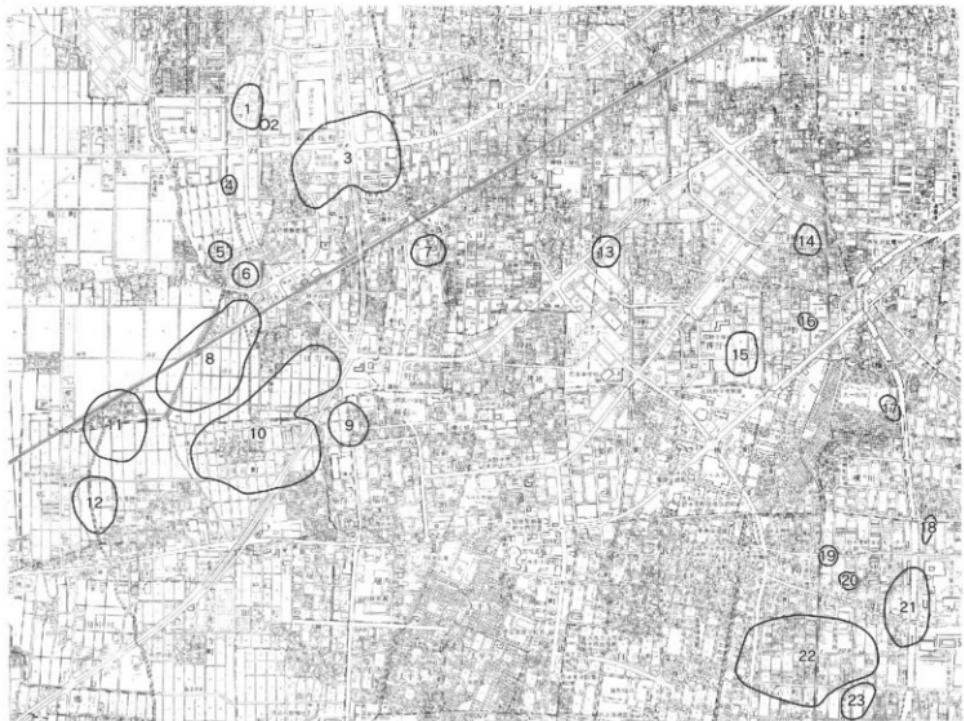
承久の乱(1221)以降、林氏の勢力は衰え、富樫氏が台頭してくる。富樫高家は加賀国の守護職に任せられ、守護所(22富樫館跡)を野々市市に構えた。館の周囲では市場などの都市的機能をもった場や、墓地やその関連施設など信仰の場があったことが分かっている。当該時期の集落遺跡は、10三日市A遺跡・12徳用クヤダ遺跡・32三納ニショサ遺跡などでも確認されている。

#### 参考文献

- 『野々市町史 資料編1』 2003 野々市町史編纂専門委員会  
『野々市町史 集落編』 2004 野々市町史編纂専門委員会  
『図説 野々市町の歴史』 2005 野々市町史編纂専門委員会



第2図 野々市市位置図



第3図 周辺の遺跡(1/20,000)

番号	道跡名	時代	番号	道跡名	時代
1	御経塚・シンデン遺跡 御経塚・シンデン古墳群	弥生 古墳 中世 近世	28	三林遺跡	中世
2	御経塚遺塚	中世 近世	29	三納トヘイダゴシ遺跡	中世
3	御経塚遺跡	彌文 弥生 古代 中世 近世	30	三納アラミヤ遺跡	弥生 中世
4	御経塚ノツヅ遺跡	弥生 中世	31	蘿平田カシシギジ遺跡	中世
5	長池・シタツボ遺跡	彌文 弥生 古墳 中世 近世	32	三納ニヨクサ遺跡	中世
6	長池キタノシ遺跡	弥生 中世	33	麻田遺跡	彌文 古代 近世
7	二日市ノシハチ遺跡	弥生 弥生 中世 近世	34	清金アガトク遺跡	彌文 古代 中世
8	男代遺跡	彌文	35	末松信濃館跡	古代 中世
9	三日市ノカシタンボ遺跡	古代 中世	36	末松福正寺跡・福正寺跡	古代
10	三日市八畠路	弥生 古代 中世	37	末松ダイカン遺跡	古代
11	禪クボタ遺跡	古代 中世	38	末松木道跡	古代
12	徳用クタ遺跡	古代 中世	39	末松施寺跡	弥生 古代 中世 近世
13	上宮寺跡	中世	40	吉元堂加跡	不詳
14	押野大坂路	彌文 弥生	41	末松C遺跡	古代
15	押野タナカ遺跡・押野加跡	彌文 弥生 中世	42	末松古墳	古墳
16	押野カワタリ遺跡	弥生 中世	43	末松A遺跡	彌文 古代 中世
17	横川本町遺跡	弥生 中世	44	大館跡	古代 中世
18	高橋セオネ遺跡	弥生 中世	45	末松若跡	不詳
19	山川網跡	彌文 中世	46	法福寺跡	不詳
20	高橋ウバガタ遺跡	弥生	47	末松しりわん遺跡	古代 近世
21	扇が丘ゴショ遺跡	弥生 古代 中世	48	下新庄アラチ遺跡	古代
22	富隈網跡	彌文 中世 近世	49	下新庄タナカダ遺跡	古代
23	扇が丘ヤマラダ遺跡	古代 中世	50	上新庄遺跡	古代
24	扇が丘シワイゴク遺跡	彌文 弥生 古代 中世	51	上林吉塙	古墳
25	曾原キヅキヤヅ遺跡	中世 近世	52	上林テラダ遺跡	古代
26	朝内網跡	彌文 中世 近世	53	上新庄ニシウラ遺跡	弥生 古墳 古代
27	田中ノタ遺跡	弥生 古墳	54	上林遺跡	弥生 古代
			55	安喜寺遺跡	弥生 古代

第1表 野々市市の遺跡(上図での位置の掲載はNo.23まで)

## 第3章 第2次調査

### 第1節 発掘・整理作業の経過

当初の計画では県道二日市・松任線築造予定部分である2,100m<sup>2</sup>の埋蔵文化財発掘調査を実施する予定で、平成13年5月7日付で野々市町北西部土地区画整理組合と委託契約を取り交わしていたが、工事計画に変更が生じ、当初調査予定箇所より300m程はなれた県道二日市・徳用線築造部分の一部である2,200m<sup>2</sup>の埋蔵文化財発掘調査を実施することとなった。平成13年9月10日付で調査地変更となる変更委託契約を取り交わし、発掘調査承諾書は平成13年9月11日に土地区画整理組合から提出された。文化財保護法58条の2第1項に基づく埋蔵文化財発掘調査報告は平成13年10月5日付教文第188号で野々市町教育委員会教育長から石川県教育委員会へ報告した。

現地での作業は平成13年10月15日より開始した。最初は大型重機による遺構面までの掘削により開始し、10月24日に掘削を完了した。掘削と並行して10月23日より作業員による人力作業を開始し、外部委託によるグリッド測量も同時に行っている。A区については、遺構は溝やピットなど多数確認できたが、遺物は少量にとどまった。B区では掘立柱建物2棟を確認したが、C・D区では遺構は希薄になり、遺物もほとんど出土しなかった。調査は排水作業に時間を取られることが多かったが12月21日に空中写真測量を実施し、同日のうちに終了した。同月25日には調査機材等の洗浄、搬出作業を終えて現地調査を終了した。

出土遺物整理作業は平成15年度に実施した。遺物の整理作業は臨時職員が4名担当し、遺物の実測図作成及び遺物実測図トレース作業を5月を行った。

報告書の執筆刊行作業は平成23年12月より開始し、原稿執筆、図版作成、遺物写真撮影、報告書編集を行い、平成24年3月に刊行した。

### 第2節 調査の方法

調査の実施にあたっては公共座標を基準とした10m×10mのグリッド杭の設定を外部委託により行った。アルファベットと算用数字を用いてグリッド割を行っている。グリッド杭設定後本格的な調査を開始している。作業の内容は人力による遺構の検出・掘削や各遺構の記録の図示、写真撮影などである。調査では掘立柱建物、土坑、溝などの遺構を検出した。遺構の土層断面や遺物の出土状況の写真撮影は白黒フィルム、カラーリバーサルフィルムを使用し撮影を行っている。上層断面の記録作業はスケール1/20で記録を行い、遺構番号は出土した遺物の取り上げと同時に番号を付す方法を取った。遺構完掘後は調査区内の清掃等を行い、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影と測量を実施し現地での作業を終了した。

### 第3節 遺構

第2次調査では古代を主体とした遺構を確認している。縄文時代では明確な遺構は確認できていないが、A区SX01から繩文土器の口縁～体部が出土している。古代の遺構はA区・B区で確認され、掘立柱建物、歴溝、溝、ピットを確認している。C区では河道路跡を確認したが、遺物も確認されず、粘性が強いことから、トレンチのみの掘削で地山面を確認するだけに留めた。河道路跡より西側にあたるD・E・F区は遺構が確認されたA・B区よりも地山面が10~70cm低く、土の粘性が強く遺構も希薄となっている。



第4図 三日市A遺跡(第2次)遺構平面図(S=1/300)

## 古代の遺構

### SB01(第5図)

B区西で確認した軸N-14°Wに向きをとる建物である。2間×2間の側柱建物で、桁行5.35m×梁行4.88m、床面積26.1m<sup>2</sup>の南北棟である。柱穴の形は円形に近く、直径30~51cmで、深さは18~50cmであった。P4はP1~P6のライン上から大きくずれる。何れの柱穴からも遺物は出土していない。

### SB02(第5図)

B区SB01の南西で確認された軸N-20°Wの建物である。1間×2間の側柱建物で桁行3.05m×梁行2.05mの東西棟で床面積6.25m<sup>2</sup>である。柱穴の形はP4が若干歪であったがほとんどが円形で、直径25cm~55cm、深さは9cm~39cmであった。何れの柱穴からも遺物は出土していない。SB01、02共に遺物は出土していないが、周辺における遺物の出土状況から見て古代の遺構であると判断した。

### SK01(第6図)

A区南西で確認した楕円形の土坑である。東西ラインが長辺で、1.8m、短辺0.55m、深さは27cmであった。土師器の小片が数点出土している。

### SK02(第6図)

B区東で確認された土坑である。形は楕円形で長径が1.04mで短径が0.88m、深さは最深部で39cmであった。遺物は須恵器環(3)が1点出土している。

### P01(第6図)

A区南西の南壁付近で確認した。東側に別のピットと切り合っており、形は平な楕円形であったと考えられる。長辺は0.65m、短辺は0.45mで深さは最も深いところで41cmであった。内部からは須恵器の横瓶(5)が出土している。

### P02(第6図)

B区北東部分で確認した。形状は円形で径40cm、深さ54cmであった。須恵器の环(4)が出土している。

### SD01(第6図)

A区北東隅での確認のためほとんどが調査区外となる。確認できたところで幅50~70cm、深さは50cmであった。土師器、須恵器それぞれ1点出土している。

### SD02(第6図)

A区中央付近を南北に走る溝である。幅70~80cm、深さは9cm~26cmで、A区内の畝溝と並行して走る。このSD02を境にして東側では畝溝は見られなくなる。遺物は出土していない。

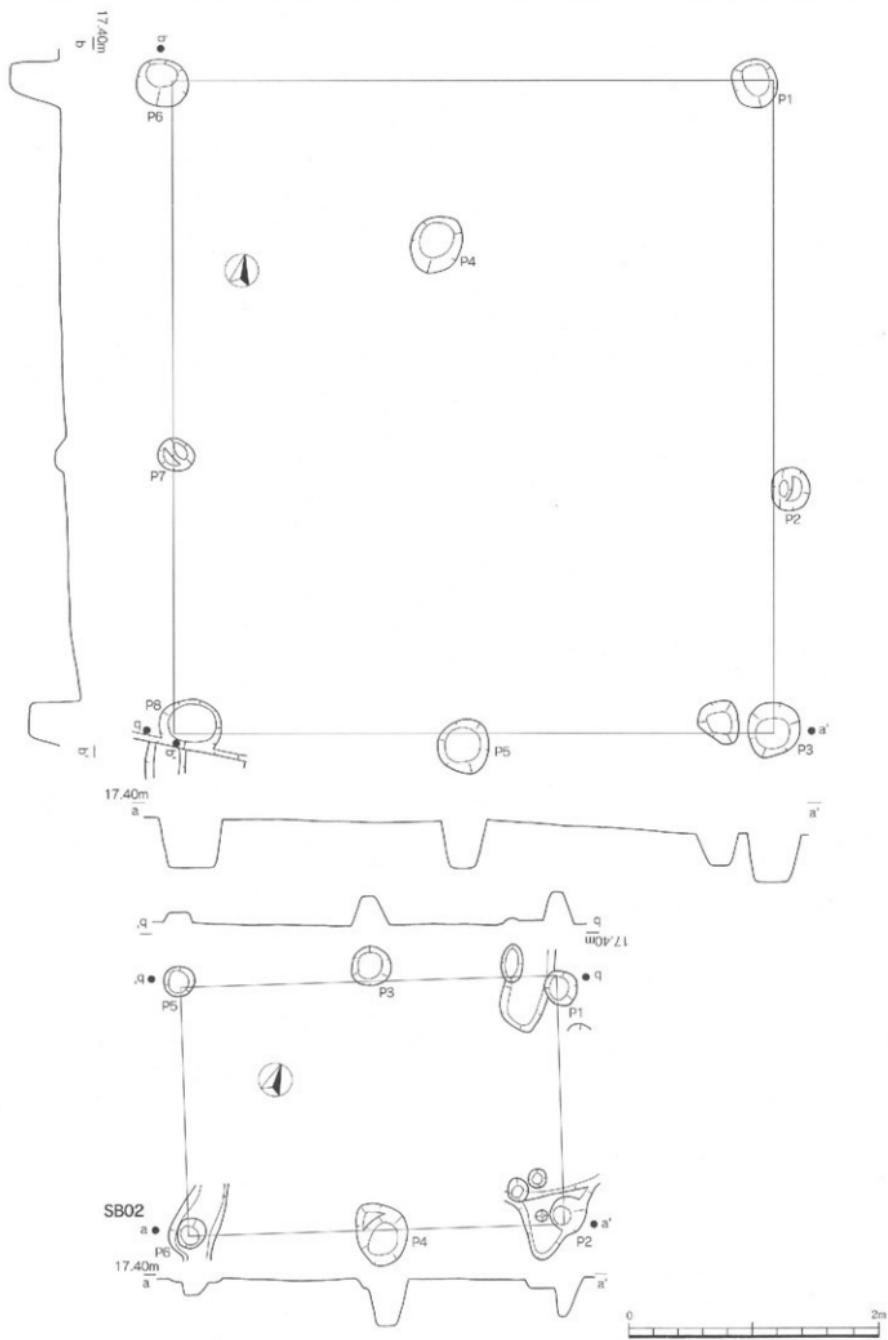
### SX01(第6図)

A区中央付近の畝溝群の中で確認した。形は歪で内部からは繩文土器(1)が出土している。周辺に縄文時代の遺構が確認できず、確証がないことから当該期の遺構として抽出した。

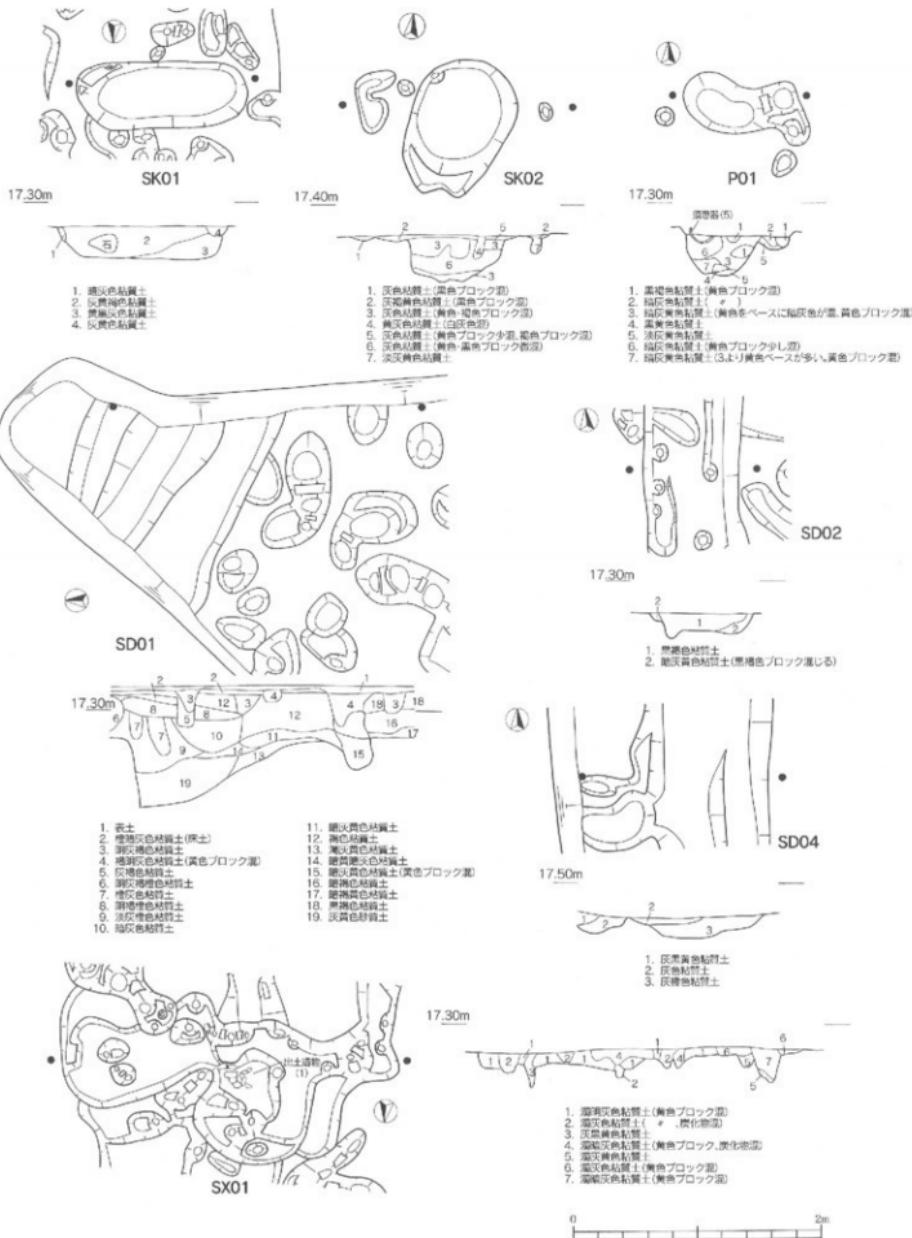
## 古代以降の遺構

### SD03・SD04(SD04・第6図)

SD03はA区西端に南北に走る溝である。灰色をベースとした覆土からは近世の陶磁器が出土している。B区西端のSD04も近世の遺物が出土しており何れも近世の溝であると考える。



第5図 SB01・SB02透構図・断面図( $S=1/40$ )



第6図 SK・SD・P・SX直横図・土層断面図 (S=1/40)

## 第4節 遺物

本調査では縄文時代、古代、近世の遺物が確認されたが、総体的に遺物の量は少ない。これらの中では遺構から出土したものや、特出すべき形態のものを中心に15点選定し、実測図を掲載した(第7図)。

縄文時代については土器片が数点出土しており、掲載点数は1点である。

古代は本調査では実測掲載できないものがほとんどであったが出土点数が一番多く、須恵器、土師器が出土している。

近世では、溝から出土しているものが大半である。以下、主要な遺構からの出土資料や特徴的な土器などを掲載した。

1はSX01から出土した縄文土器である。口縁×部体までのもので、底部の出土はなかった。外面には斜め方向の条痕が施されている。2は縄文土器の底部で外面には網代痕が確認できる。縄文土器については、実測には至っていないが他の遺構からも数点であるが出土している。3・4は須恵器の壺である。4は底部が厚く立ち上がりが緩やかである。5は須恵器の横瓶である。焼成が不良のため部体が壊んでおり、焼成時の際に付着した他の須恵器が壊れた箇所に残っている。

6～15は近世の陶磁器である。碗や皿、鉢など生活雑器が多く、ほとんどがSD03・04からの出土である。

## 第5節 小結

今回の発掘調査では縄文時代、古代、近世の遺構・遺物を確認することができた。

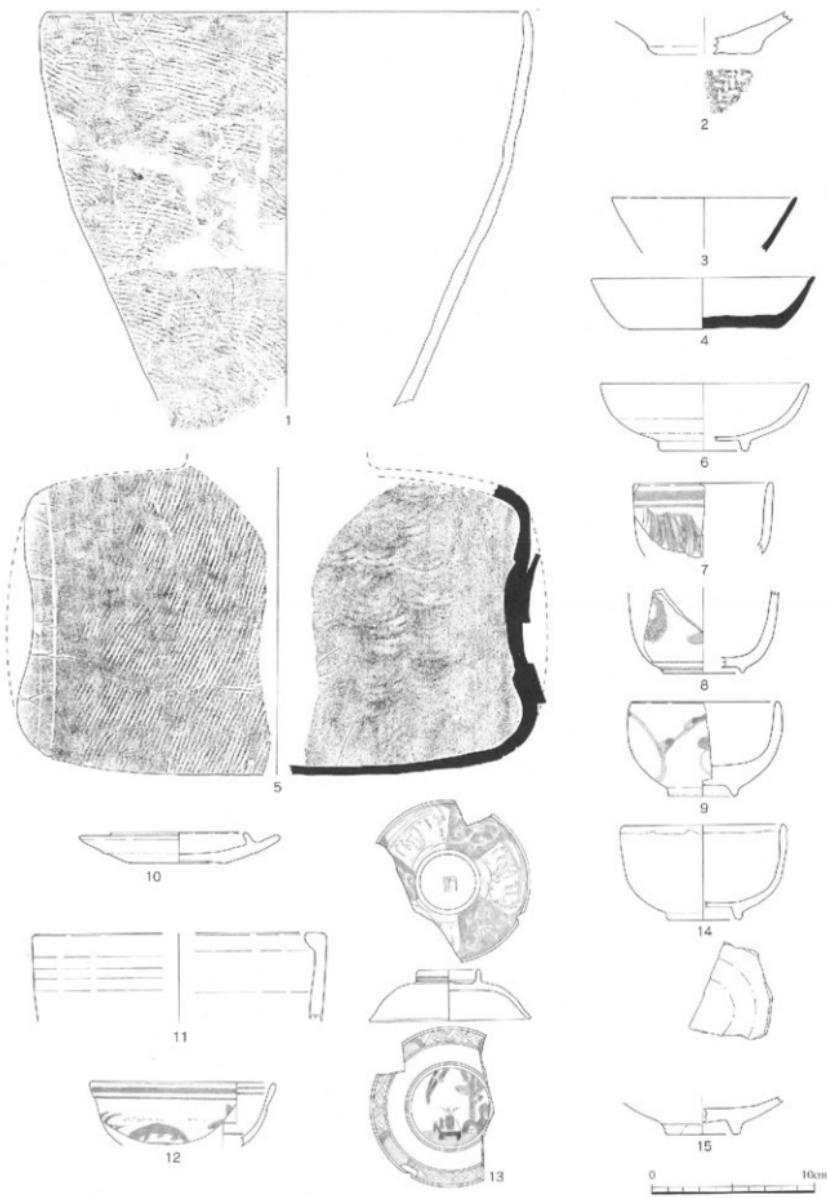
縄文時代では、遺構から遺物の出土が見られたが、当該期の遺構とは決定付けるに至らなかつた。今回の調査だけでなく周辺の調査でも縄文期の遺物が確認されていることから、今回のものも食料採取などの一時的な生活拠点地と考えたい。

古代では掘立柱建物2棟と耕作地、溝を確認した。調査地の西へ向かうと地山面は低くなり遺構は希薄になっていく。耕作地については東西15m、南北15mに渡って確認し、更に北側に耕作域は広がる。散溝からの遺物の出土はごく少量で時期を決定付ける状態のいい遺物は出土しなかつた。掘立柱建物については2間×2間と1間×2間の2棟のみの検出であった。柱穴からの遺物の出土ではなく、耕作地同様、遺構の時期を決定するには出土遺物の点数が乏しいが、周辺の遺構から出土の遺物や周辺調査の古代遺構の時期から考えて8世紀中ごろ～後半の集落の一部、耕作地であると考える。

近世では南北方向の溝を2条検出している。農業用の用水として使用していたものである。

第2表 出土遺物観察表

遺構番号	遺構名	遺構面積(m²)	遺構形状	遺構内出土	出土位置	測定点	測定方法
1	AAB-01 SNS01	20.4	1.5m×1.5m 1.5m×1.5m	1.5m×1.5m 1.5m×1.5m	1.5m×1.5m 1.5m×1.5m	1/19	面積割合あり 測定面積計算
2	BBC-01 SNS02	11.4	1.5m×1.5m 1.5m×1.5m	1.5m×1.5m 1.5m×1.5m	1.5m×1.5m 1.5m×1.5m	1/20	面積割合あり 測定面積計算
4	CDC-01 F002	12.8	3.0	3.0m 3.0m	3.0m 3.0m	1/21	面積割合あり 測定面積計算
5	ADM-01 F003	12.7	4.1	4.1m×1.5m 4.1m×1.5m	4.1m×1.5m 4.1m×1.5m	1/22	面積割合あり 測定面積計算
7	ADM-02 F004	8.5	4.0m×2.0m 4.0m×2.0m	4.0m×2.0m 4.0m×2.0m	4.0m×2.0m 4.0m×2.0m	1/23	面積割合あり 測定面積計算
8	ADM-03 F005	9.0	4.5m×2.0m 4.5m×2.0m	4.5m×2.0m 4.5m×2.0m	4.5m×2.0m 4.5m×2.0m	1/24	面積割合あり 測定面積計算
9	ADM-04 F006	36.0	1.0	1.0m×1.0m 1.0m×1.0m	1.0m×1.0m 1.0m×1.0m	1/25	面積割合あり 測定面積計算
10	ADM-05 F007	12.2	1.9	1.9m×1.0m 1.9m×1.0m	1.9m×1.0m 1.9m×1.0m	1/26	面積割合あり 測定面積計算
11	ADM-06 F008	18.0	3.0m×6.0m 3.0m×6.0m	3.0m×6.0m 3.0m×6.0m	3.0m×6.0m 3.0m×6.0m	1/27	面積割合あり 測定面積計算
12	ADM-07 F009	11.4	3.0m×3.8m 3.0m×3.8m	3.0m×3.8m 3.0m×3.8m	3.0m×3.8m 3.0m×3.8m	1/28	面積割合あり 測定面積計算
13	ADM-08 F010	10.0	3.0	3.0m×3.0m 3.0m×3.0m	3.0m×3.0m 3.0m×3.0m	1/29	面積割合あり 測定面積計算
14	ADM-09 F011	4.8	2.0m×2.4m 2.0m×2.4m	2.0m×2.4m 2.0m×2.4m	2.0m×2.4m 2.0m×2.4m	1/30	面積割合あり 測定面積計算
15	ADM-10 F012	10.2	3.0	3.0m×3.0m 3.0m×3.0m	3.0m×3.0m 3.0m×3.0m	1/31	面積割合あり 測定面積計算



第7図 出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )

## 第4章 第8次調査

### 第1節 発掘・整理作業の経過

平成15年3月17日付の野々市町北西部土地区画整理組合からの埋蔵文化財発掘調査依頼文書を受けて、同年3月24日に発掘調査実施計画書を提出、同日付で土地区画整理組合との埋蔵文化財発掘調査委託契約を取り交わしている。文化財保護法58条の2第1項に基づく埋蔵文化財発掘調査報告は平成15年4月1日付教文第6号で野々市町教育委員会教育長から石川県教育委員会へ報告した。

現地での作業は平成15年4月7日より開始した。調査区は北からA区～E区の5地区設定とし、最初は大型重機による遺構面までの掘削を行い、A区を4月17日完了している。作業員による人力作業は5月1日より開始した。作業は調査区周辺の環境整備、遺構検出を行い、縮尺1/100の遺構略図を図化しながら遺構の掘削を進めていった。A区については、斜めに横断するように自然河道跡が確認され、その遺構についてはトレント掘削に留め完掘は行わなかったが、その周辺には複雑に切り合う溝や、多数のピットを確認し、調査区南側では掘立柱建物を3棟検出した。A区遺構完掘後は遺構清掃作業を行い8月28日に空中写真測量を実施した。B区～E区については6月26日～7月1日に重機掘削を行い、B・C区では堅穴建物や堅穴状遺構など古代から中世の遺構を確認し、D・E区については近世の溝や鞍部を確認した。B区～E区の空中写真測量は10月3日に実施し、その後現場で遺構の個別写真の撮影や土層断面実測作業などの残務作業を行い、10月7日に現地での調査を終了した。

出土遺物整理作業は平成16年度に実施した。遺物の整理作業は臨時作業員が3名担当し、遺物の洗浄・注記・実測図作成及び遺物実測図トレース作業を行った。

報告書の刊行作業は平成23年12月より開始し、原稿執筆、図版作成、遺物写真撮影、報告書編集を行い、平成24年3月に刊行した。



遺構検出状況

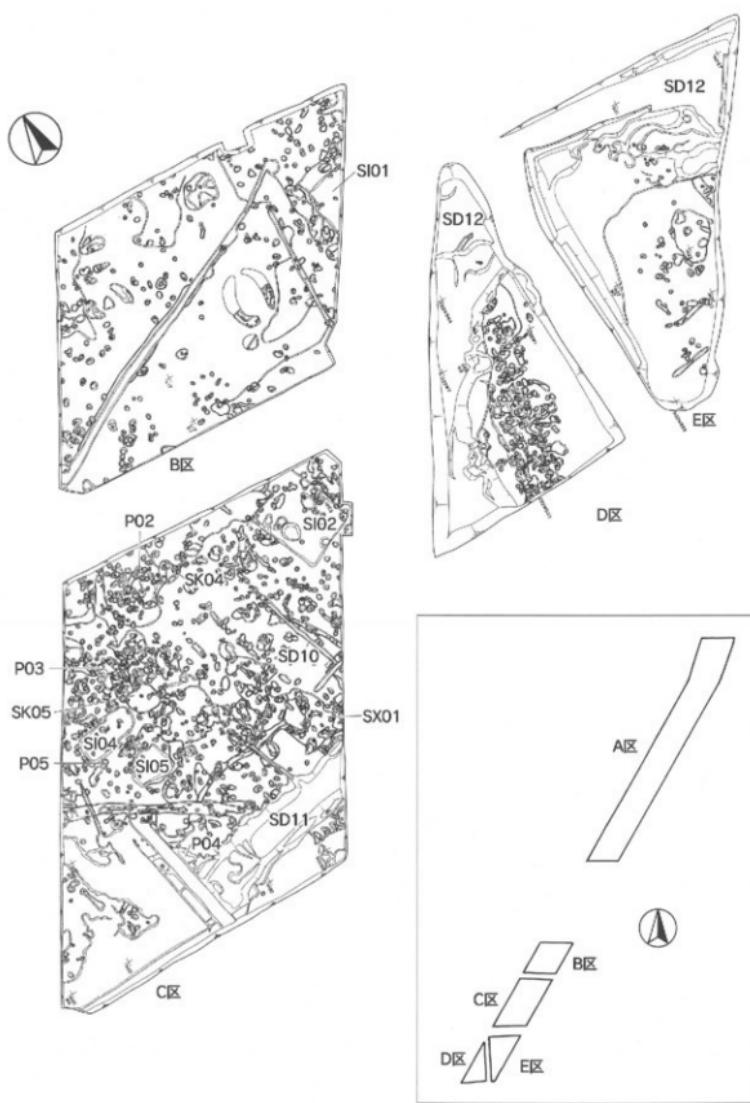


遺構掘削作業

### 第2節 調査の方法

調査の実施にあたっては公共座標を基準とした10m×10mのグリッド杭の設定を外部委託により行った。アルファベットと算用数字を用いてグリッド割を行っている。グリッド杭設定後本格的な調査を開始している。作業の内容は人力による遺構の検出・掘削や各遺構の記録の図示、写真撮影などである。調査の手順としては、設定した調査区ごとに調査を行い、遺構密度の高低差はあるものの、各調査区で遺構・遺物を確認した。第8次調査では堅穴建物、掘立柱建物、堅穴状遺構、土坑、溝などの遺構を検出した。遺構検出後は略図を作成している。略図作成後遺構の掘削を行い、主要遺構や遺物が出土した





第8図 三日市A遺跡(第8次)遺構平面図( $S=1/300$ )

ものについては、記録作業を行ってから完掘した。記録作業はスケール1/20で記録を行い、遺構番号は出土した遺物の取り上げと一緒に番号付す方法を取った。遺構の上層断面や遺物の出土状況の写真撮影は白黒フィルム、カラーリバーサルフィルムを使用し、デジタルカメラでの撮影も行っている。全ての遺構完掘後は調査区内の清掃等を行い、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影と測量を実施した。空中写真測量終了後は堅穴建物内のカマドの土層断面の実測を行い現地調査を終了した。

整理作業については、野々市市ふるさと歴史館内の調査整理室で実施した。整理作業の手順は、出土した全ての遺物を洗浄し、乾燥した遺物に遺跡名や出土した遺構番号などを注記した。注記後は可能なものは接合を行い、残りの状態の良好なものについては実測図を作成し、トレースを行っている。その後現地調査で記録を行った土層断面図などのトレースも実施した。

これらの作業完了後、報告書作成作業に取り掛かり、原稿執筆、報告書掲載の遺物の写真撮影、図面、写真的レイアウト等を行い報告書を刊行した。

### 第3節 遺構

第8次調査では古代・中世・近世の遺構を確認している。縄文時代・弥生時代については明確な遺構は確認できていないが、A区自然河道などから縄文時代・弥生時代の遺物が確認されている。遺構の密度についてはA・B・C区では集落跡であることを裏付ける遺構が確認されているが、D・E区では近世の河道と古代の鞍部が確認されており、遺構の密度も希薄となる。

以下は遺構の概要である。

#### 古代以前の遺構

##### 自然河道

A区北～中央部分を斜めに横切る河道である。トレンチのみの掘削にとどめた。幅は17m、深さは1.3mで、河道南側肩部はSD09と切り合う。遺物は縄文土器(1・4・6)、弥生土器(7～9)が出土している。

#### 古代の遺構

##### SI01(第9図)

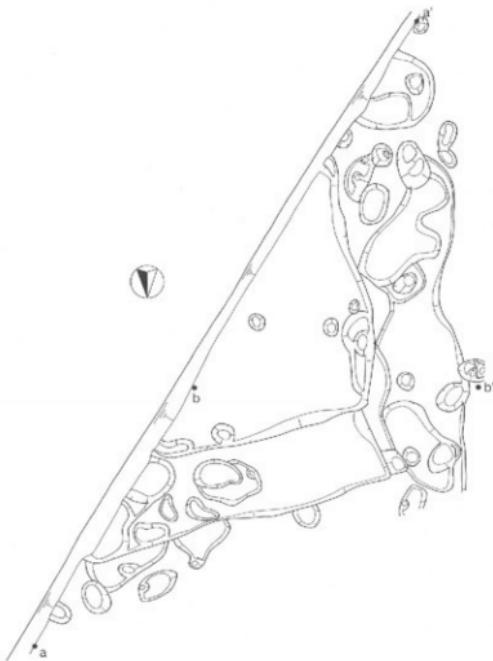
B区北東で確認した。南辺と東辺が調査区外となる。確認できるところで東西ラインが2.7m、南北ラインが3.1mであった。床面は整地されており、貼床を確認した。カマド及び焼土は確認していない。遺物は上師器塊(14)、須恵器有台杯(15)、無台杯(16)がそれぞれ出土している。

##### SI02(第10図)

C区北東隅で確認した。建物の北西部分が別の遺構に切られているので全容は分からず、平面プランは隅丸方形を呈する。東西ラインが3.9m、南北ラインは4.3m以上で、北東隅にはカマドの痕跡と思われる焼土塊が広がっていた。煙道は確認できていない。壁穴内の遺物はほとんどがカマドの周辺で出土しており、建物南側には貼床面が確認できた。遺物で図示できたものは土師器の壺7点(17～23)、須恵器の壺4点(24～27)、須恵器瓶(28)の12点であった。

##### SK04(第15図)

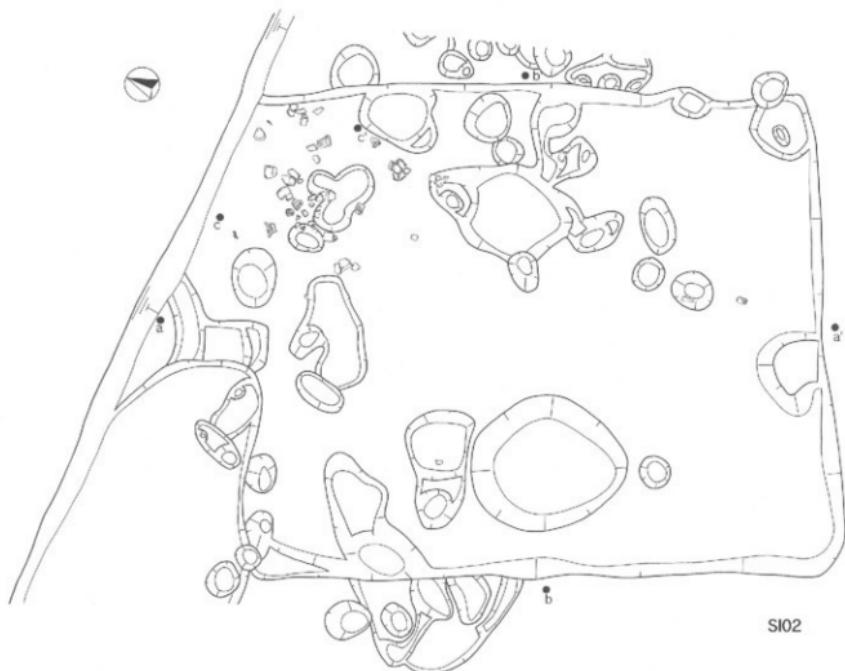
C区北側で確認し、SI02の6m程西に位置する。形は歪で、内部にピットを数基確認している。長径で1.4m、短径1.3mを呈し、深さは48cmであった。遺物は弥生土器の底部片が1点と古代のものと思われる土師質の土器が数点出土している。



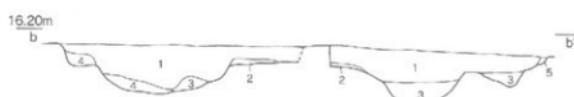
1. 耕土
2. 保土
3. 耕土
4. 保土
5. 保土
6. 削沃色粘質土(削沃色ブロック少量層)
7. 削沃色粘質土(削沃色ブロック鉄分層)
8. 淡灰色粘質土
9. 淡灰色粘質土
10. 淡灰色粘質土(黄色ブロック少量層)
11. 淡灰色粘質土(黄色ブロック少量層)
12. 淡灰色粘質土(黄色ブロック多く少量層)
13. 淡灰色粘質土(黄色ブロック多く、厚さ10cmのブロックが少量層)
14. 削沃色粘質土(削沃色ブロック少量層)
15. 淡灰色粘質土(削沃色ブロック混、灰色は11より少し黒い)(鉄鉱)
16. 錫削色粘質土(削沃色ブロック混)
17. 錫削色粘質土
18. 青灰色粘質土(青色ブロック、淡灰色ブロック、錫削色ブロック混)
19. 青灰色粘質土(青色ブロック、淡灰色ブロック、錫削色ブロック混じるが黄色ブロックが18より少ない)
20. 黄灰色粘質土

1. 錫削色粘質土(黄色ブロック混)
2. 淡灰色粘質土(黄色ブロック混、黄色ブロック多い、粘土)
3. 淡灰色粘質土(黄色ブロック混)
4. 淡灰色粘質土
5. 錫削色ブロック、黄色ブロック、淡灰色ブロック混じた土色)

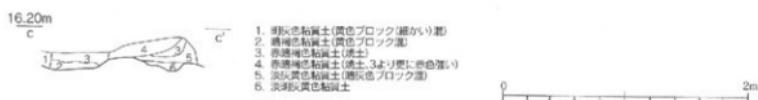
第9図 B区 SI01遺構図・土層断面図(S=1/60)



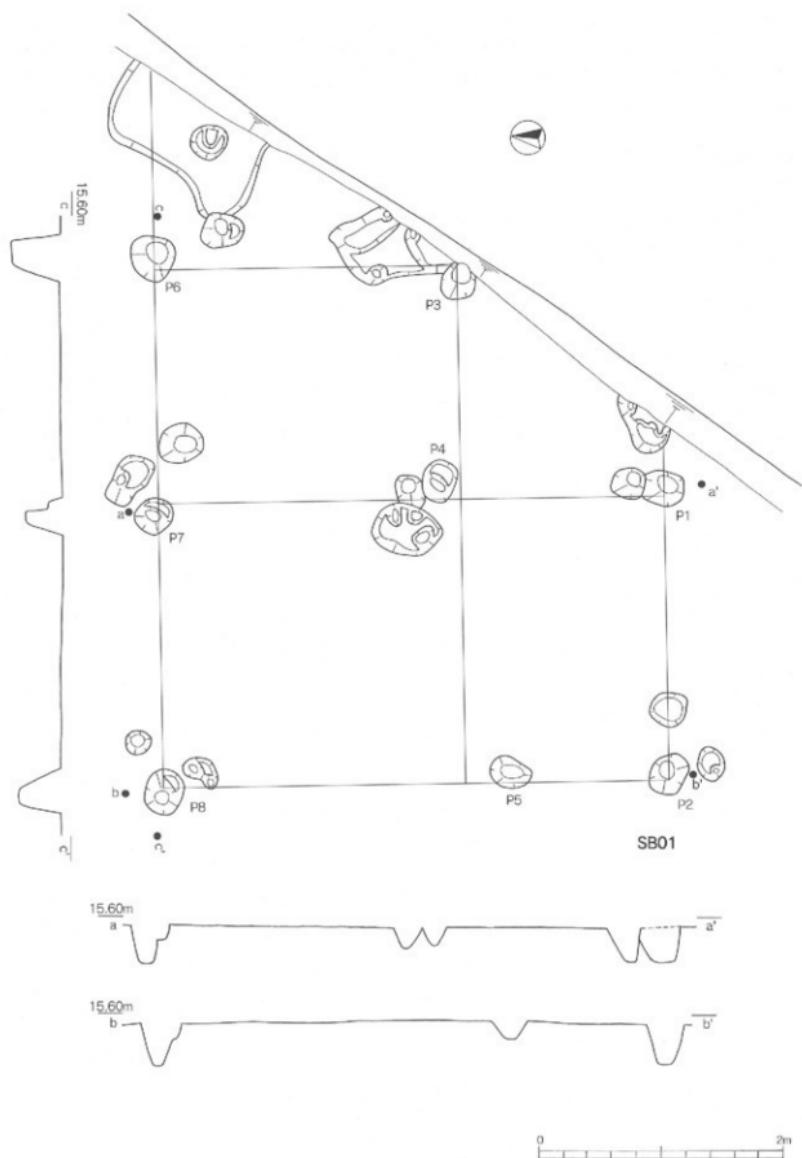
1. 黄褐色砂質土
2. 細粒砂質土(黄色ブロック層)
3. 淡灰色土質
4. 淡灰色砂質土(黄色ブロック層)
5. 黃褐色砂質土(細灰色ブロック層、黄色ブロック層、結凍面)



1. 黄褐色砂質土
2. 黃褐色砂質土(黄色ブロック層、粘土層)
3. 黄褐色砂質土(黄色ブロック層)
4. 黄褐色砂質土(黄色ブロック層)
5. 淡色砂質土(細灰色ブロック層)



第10図 C区 SI02縦横図・土層断面図(S=1/40)



第11図 A区 SB01遺構図・断面図( $S=1/40$ )

## P02

C区北壁付近で確認した。SK04の西1.0mの場所に位置する。直径24cm、深さ18cmの穴である。遺物はほぼ完形に近い須恵器坏(38)が出土しており、付近に位置するピットからも同一個体の破片が出土している。

## 中世の遺構

### SB01(第11図)

A区南側の東壁付近で確認した軸N-10°Wの建物である。建物東側は調査区外のため確認できていない。2間以上×2間の総柱建物で、桁行4.2m以上×梁行4.1mの東西棟である。柱穴の形は歪な円形で、直径30~39cmで、深さは16~40cmであった。P3-P4-P5ラインはP1-P2ラインに近接し、P5は東西ラインから40cmほどずれる。P7からは縄文土器が1点出土している。

### SB02(第12図)

A区南側西壁付近で確認した建物である。軸N-4°Wで西側は調査区外となる。桁行2間以上×梁行2間で4.7m以上×3.2mの総柱建物である。柱穴の形は歪なものではなく梢円形や円形に近い形がほとんどであった。直径20cm台のものが多く、梢円形のP4のみが長辺35cmであった。深さは10cm~34cmであった。何れの柱穴からも遺物は出土していない。

### SB03(第13図)

A区SB02の南側に位置する軸N-1°Eの建物である。建物北側は調査区外となる。桁行2間×梁行4間以上で9.0m以上×5.8m以上を測る。柱穴の形状は略方形や梢円形が多く、径25cm~38cm、深さ10cm~33cmである。P1-P2間は他の柱穴の間隔よりも狭い。柱穴からの遺物の出土は無い。

### SI03(第14図)

A区南で検出した堅穴状遺構でSB03内部の東南隅に位置する。形は歪な方形で、長辺は2.5m、短辺は長いところで1.3mであった。深さは最深部で10cmと浅い。SB03と軸が合うため付属施設と考えられる。

### SI04(第14図)

C区西壁近くに位置する堅穴状遺構である。長軸3.85m、短軸1.75mで深さは最深部で22cmであった。内部には数基のピットが確認している。土師器皿が4点(51~54)と本報告に掲載はできなかつたが、珠洲焼片と鉄製品が出土している。

### SI05(第14図)

C区中央付近に位置し、SI04の東南に位置する。形は歪で内部には径20cm~55cmのピットを数基確認している。南はテラス状になっており北側は6cm低くなる。最深部で25cmであった。遺物は土師器皿が3点(55~57)出土している。

### SK01(第15図)

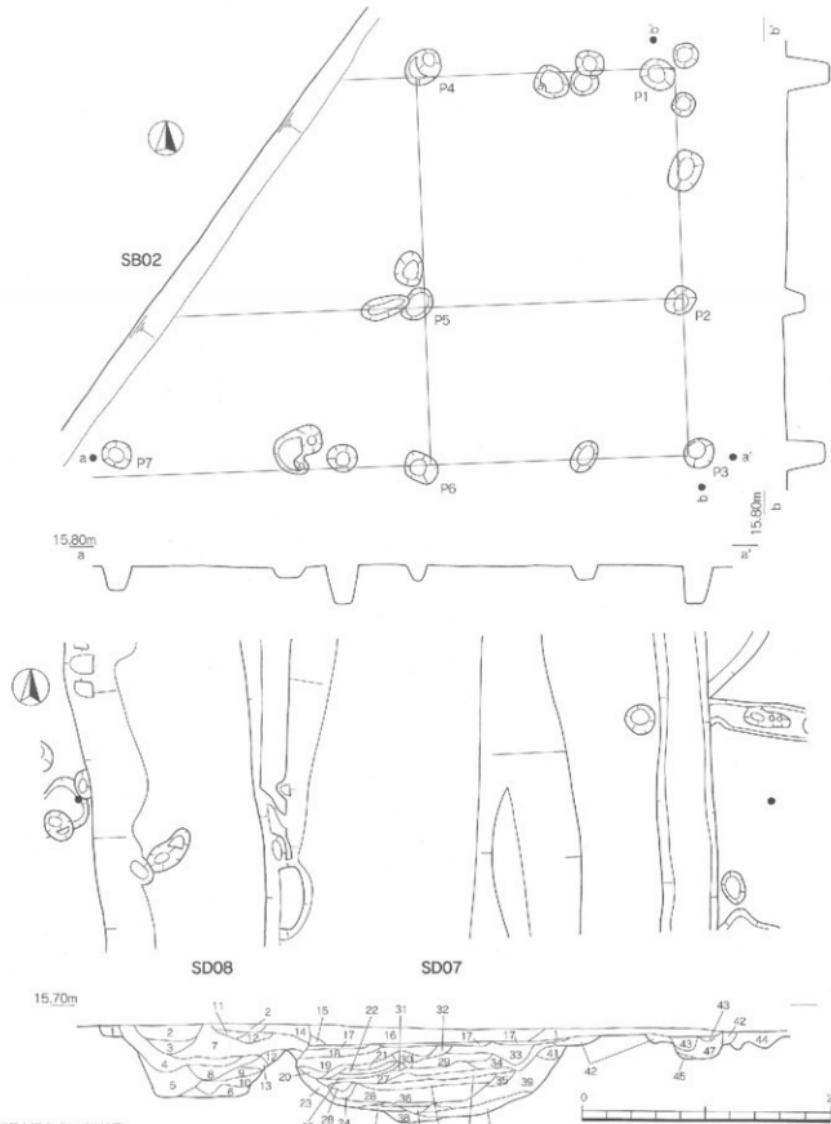
A区北で確認した歪な形の土坑である。東西ラインが長辺となり1.1m、短辺0.55mであった。東西にテラス部分があり、中央が深い。深さは中央の最も深い部分で40cmであった。遺物は出土していない。

### SK02(第15図)

A区北、SK01から2m南西で確認された土坑である。形は梢円形を呈し、長辺が1.50mで短辺が1.05m、深さは最深部で39cmであった。遺物は須恵器(3)が1点出土している。

### SK03(第15図)

A区北側の自然河道北肩付近に位置する。形は直径1.5m有する歪な円形で、南に一段テラスが設けられており、最も深い部分は42cmであった。遺物は出土していない。

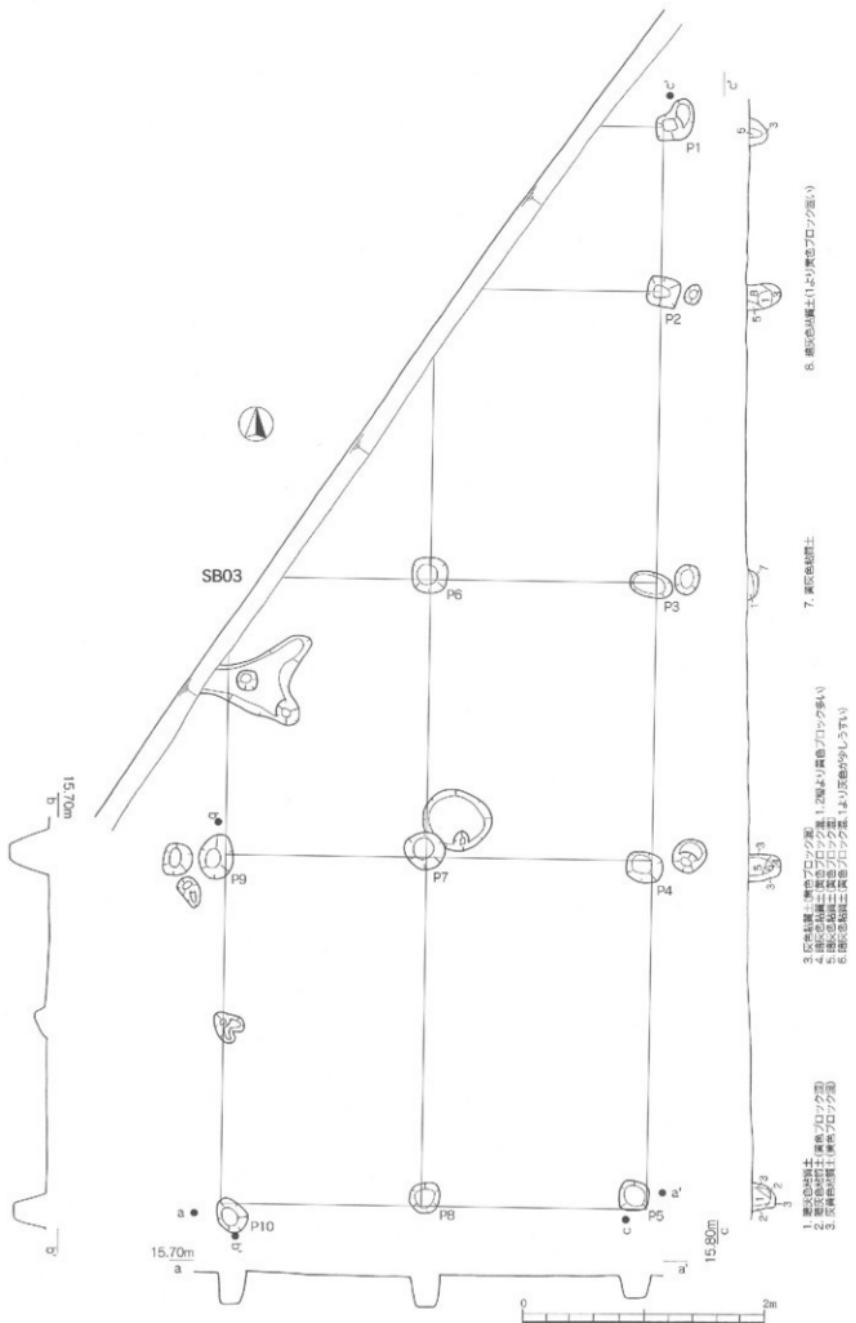


1. 露灰褐色砂質土(黃色ブロック(小)面)
2. 露灰褐色砂質土(黃色ブロック(小)面)
3. 露灰褐色砂質土(露)
4. 露灰褐色砂質土(露)(露)
5. 露灰褐色砂質土(露)黄色ブロック(小)面)
6. 露灰褐色砂質土(露)
7. 露灰褐色砂質土(露)黄色ブロック(小)面(4よりササラした土)
8. 露灰褐色砂質土(露)黄色ブロック(小)少部、露灰褐色ブロック(小)少部)
9. 露灰褐色砂質土(露)黄色、露灰褐色ブロック(小)少部、露灰褐色ブロック(小)少部)
10. 露灰褐色砂質土(露)黄色、露灰褐色ブロック(小)少部)
11. 露灰褐色砂質土(露)
12. 露灰褐色砂質土(7と露)、7よりブロック(大)
13. 露灰褐色砂質土(露)
14. 露灰褐色砂質土(露)
15. 露灰褐色砂質土(露)
16. 露灰褐色砂質土(露)
17. 露灰褐色砂質土(露)
18. 露灰褐色砂質土(16より熱層強)
19. 露灰褐色砂質土(露)露灰褐色砂質土との土(白灰色砂質土、黄色ブロック面)
20. 露灰褐色砂質土(露)黄色ブロック、相談色(ブロック面)

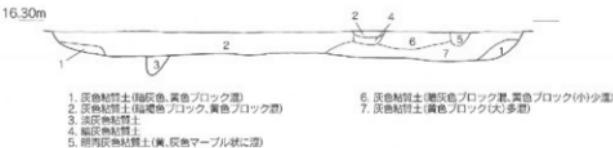
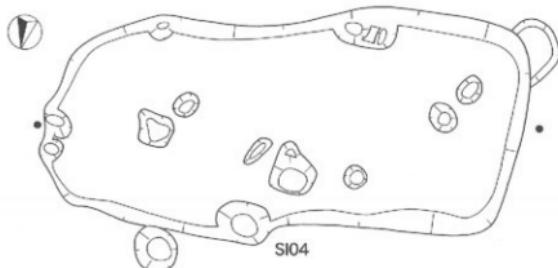
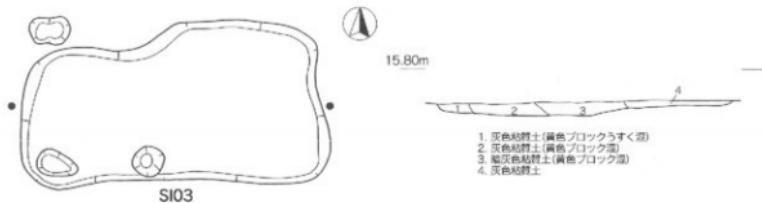
21. 黄色ブロック、露灰褐色ブロック、露灰褐色ブロックとの土土
22. 露灰褐色砂質土(露)黄色ブロック、黄色ブロック面)
23. 露灰褐色砂質土
24. 露灰褐色砂質土(露)
25. 白灰色砂質土
26. 露灰褐色砂質土(小石面)
27. 露灰褐色砂質土(露)黄色ブロック面)
28. 露灰褐色砂質土(露)
29. 露灰褐色砂質土(露)
30. 黄色ブロック、露灰褐色ブロック、露灰褐色ブロックとの土土(露)黄色ブロック多面)

31. 露灰褐色砂質土(黄色ブロック粘質土)
32. 白灰色砂質土
33. 露灰褐色砂質土(露)黄色砂質土面)
34. 露灰褐色砂質土(白色砂質土面)
35. 白灰色砂質土(露)、露灰褐色ブロック面)
36. 露灰褐色砂質土(露)
37. 露灰褐色砂質土(小石面)
38. 露灰褐色砂質土(露)
39. 露灰褐色砂質土(露)
40. 露灰褐色砂質土(露)
41. 露灰褐色砂質土(露)白色砂質土面)
42. 露灰褐色砂質土(露)
43. 露灰褐色砂質土(露)
44. 露灰褐色砂質土
45. 露灰褐色砂質土(露)40より長い)

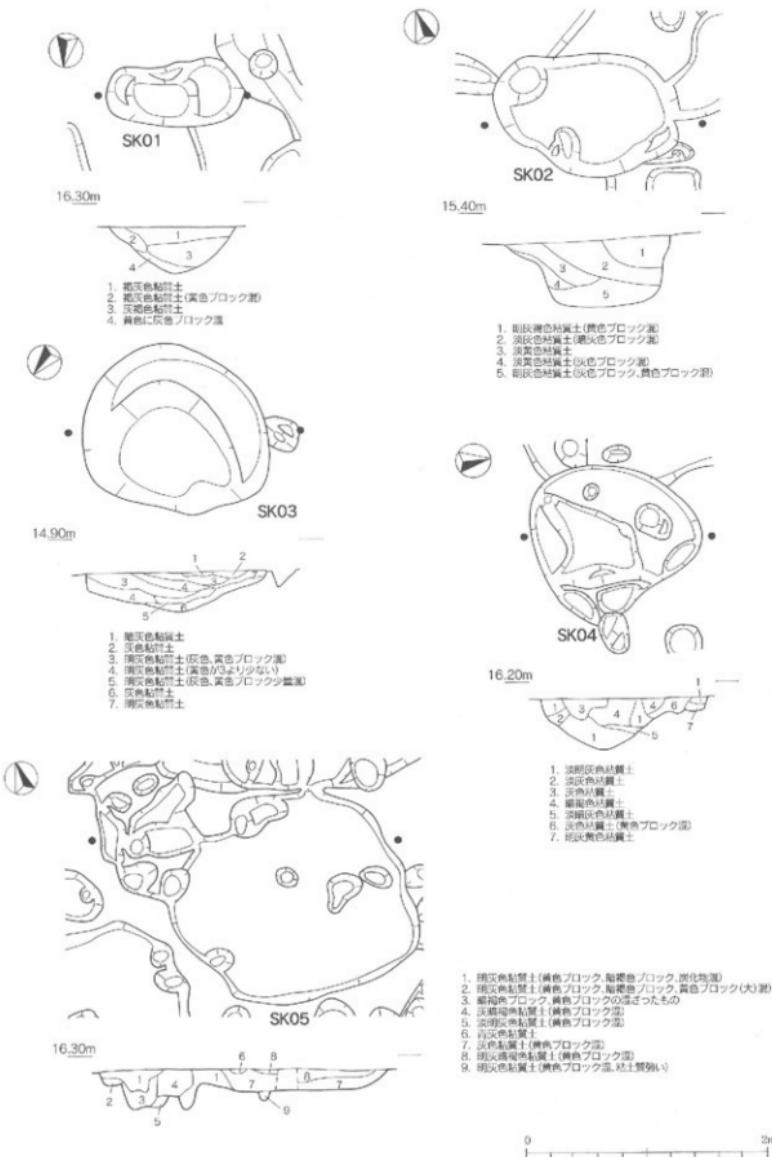
第12図 A区 SB02・SD過横断図・土層断面図(S=1/40)



第13図 A区 SB03遺構図・土層断面図 (S=1/40)



第14図 A・C区 SI03～05構造図・土層断面図(S=1/40)



第15図 A・C区 SK遺構図・土層断面図(S=1/40)

### SK05(第15図)

前述のC区SI04の東隣りに位置する。周辺はピット等遺構が多いため、一部切り合っている。形は直角方形と思われ、長辺1.85m、短辺1.7mであった。深さは18cmである。遺物は土師器片が数点出土している。

### SD01

A区北側を走る溝である。自然河道の北側に沿うように進路をとり、西から東へ向かい、途中でカーブし北調査区外へと伸びる。幅50~120cm、深さは14cm~27cmを測る。遺物は弥生土器(10)や瀬戸美濃の小片などが出土している。

### SD02

SD01とほとんど同じ流路であるが北側で分岐し調査区外へ抜けていく。分岐した箇所の溝幅は50cm~70cmで深さは7cm~55cmであった。北壁から3m~7mの区間は他の箇所よりも深くなる。遺物は天目茶碗(58)、土師器皿、弥生土器の小片が出土している。

### SD03

SD02の西側に位置する。西側の壁から東へ進み、20m程進んだところで北に進路を変えて調査区外へ伸びる。幅80cm~120cm、深さは6cm~56cmを測る。遺物は縄文土器の破片、土師器皿(59)が出土している。

### SD04

A区SD03とはほぼ並走する溝である。SD03同様西側の壁から東へ進み、20m進んだところで北に進路を変え、更に2mほど進んだところで終焉する。幅は20cm~30cm、深さは11cm~47cmであった。出土した遺物は縄文土器、土師器皿の小片であった。

### SD09

A区南に位置し、SD07と切り合う溝である。長さ5mで、切り合っているため全体は明らかでないが、確認できたところで最大幅60cm、最深部で18cmであった。上色は黒色土で、出土した遺物は珠洲焼のすり鉢(66)、越前焼のすり鉢(67)が出土している。

### P03

C区北西に位置し、SK05の北2.0mに位置する。形は円形で、直径30cm、深さ18cmであった。遺物は、土師器皿が(31)の他に数点出土している。

### P04

C区南に位置する。後述する近世溝のSD11の北側で確認している。形は直角で深さは30cmを測る。遺物は灯明皿(71)が1点出土している。

### P05

C区SI04の南隣に位置する。直径36cm、深さは25cmであった。遺物は鉢目の確認できる珠洲焼すり鉢(73)が1点出土している。

## 中世以降の遺構

### SD05

A区中央部に位置する。西壁から東へ進み、後述するSD07に合流する。自然河道の南側に沿うように進路をとる。溝幅は20cm~30cmで深さは7cm~13cmであった。出土した遺物は近世陶器と煙管の雁首が1点ずつ出土している。

### SD06

A区中央SD05と並行して走る溝である。SD05同様西壁から東へ進み、後述するSD07に合流する進路をとる。溝幅は1m12cmで深さは75cmであった。遺物は珠洲焼すり鉢や近世陶磁器、動物のものと思われる骨片が出土している。

### SD07(第12図)

A区を走る溝である。A区東南隅から北へ進み、37m程進んだところでクランクし進路を東に変えてA区東の調査区外へ伸びる。幅1m16cm～2m10cm程で深さは50cm～80cmを測る。出土した遺物は珠洲焼や中国製青磁など中世のもの(60～64)も出土しているが、ほとんどは近世の陶磁器類であった。

### SD08(第12図)

A区で確認した溝である。途中1mほど途切れるが、確認できた長さは26mほどで西壁から調査区外へ伸びていく。時期はSD07の方が新しく、切り合っているため全体の規格は定かではないが、確認できたところで幅1m50cm、深さは深い部分で60cmであった。遺物は古代の土器(29～37)土師器皿(65)や近世の陶磁器が出土している。

### SD12

D・E区で確認された溝である。完掘した状況から判断すると蛇行して流路をとっていたと思われる。出土した遺物はほとんど近世の陶磁器であったが、中世の陶磁器(68～70)なども出土した。

## 第4節 遺 物

本調査では縄文時代、弥生時代、古代、中世、近世の4時期の遺物が出土している。近世では溝から出土したものが多く出土しているが、報告書ページ数に制限があるため本報告では近世以外の出土した遺物の中から構造から出土したものや、特出すべき形態のものを選定し実測図を掲載した(第16図～19図)。

1～6は縄文土器で、包含層、A区自然河道から出土したものが多い。1・2、5・6は深鉢で、1は口縁のみの出土である。2は縦位に条痕文が施され、屈曲部に列点文が施文されている。1・2共に晩期中葉～後葉の下野式土器である。5は口縁がくの字状の深鉢である。外面は横位に条痕文が施され、内面には輪積み痕が確認できた。6は内外面に条痕文が施され、内面上部には粗糲痕を確認している。長竹式の後半期のものである。3・4は底部のみの出土で、4は網代圧痕が底部外面に見える。

7～13は弥生土器で、7～9については何れもA区自然河道出土の柴山出村式の土器である。7は深鉢で外面には斜位に条痕文が施されている。8は壺で外面に赤彩、条痕文が斜位に施されている。11は縫外面には棒状の工具による沈線を有している。9は体部のみの出土で、外面には赤彩と条痕文が確認できた。10・11は壺の有段口縁～頸部で、10は口縁外面の振凹線7本を確認している。12・13は高环の坏部である。12は器形から推察して器台になる可能性がある。外面に振凹線を6本有し、内面にはミガキ調整を確認している。13は外面にミガキ調整痕を確認し、内面には細かいキズが残っている。10～13は弥生時代後期後半の法式のものである。

14～50は古代の土器で、14～16はB区SI01から出土している。14は内外面に赤彩が施された土師器塊である。外面には調整の痕が強く残っている。15・16は須恵器坏である。17～28はC区SI02より出土したものである。17～23は土師器甕で、口縁～体部のものがほとんどである。土師器甕の底部の出土は無かった。17は口縁端部に丸みを持ち、わずかであるがつまみ上げている。18は口縁が短く外反して、端部を丸く仕上げている。19のII線は短いが大きく外反し、僅かにつまみ上げて端部を仕上げている。22は内外面にカキ目痕が残るが、特に内面の痕跡が強い。23は体部内外面、及び口縁内面にカキ目痕がはつきりと残っており、外面には縦位に工具痕による調整痕が數本残っている。短い口縁は端部を垂直につまんで仕上げている。24～28は須恵器で、24～27は坏である。25は口縁～体部の出土であるが24と比定して立ち上がりが緩やかである。26・27は底部で27は厚みのあるつくりで底部9.5cmとやや大型である。28は台付の瓶底部である。29～37は近世溝SD12より出土したものである。29～33は須恵器の坏である。31・32は底部外面に強いナテ痕が確認できる。34は底部のみの出土であるが底径13.2cmと大型であるこ

とから須恵器盤になると思われる。35は須恵器の壺の口縁部で、口縁は短く垂直に立ち上がる。外面には一部焼成時の火ぶくれの痕が残っている。36・37は須恵器瓶の体部下半～底部である。36は外面には自然灰が降りかかり、高台端部が欠けている。2点とも形状・底径から台付壺になる可能性がある。38～50はSX、ピット、包含層等から出土したものである。39はSX01から出土した土師器の壺で、内外面に赤彩が施され、体部内外面に煤が付着している。41は土師器甕の底部で、直径1.4cmの穿孔が1ヶ所確認できる。46はD区の較部から出土したもので坏を上焼成している。

51～80は中世の土器・陶磁器を掲載したものである。51～54はSI04から出土した土師器皿である。51・52は口縁部を外反させ、体部下半に稜をもつ。51は口徑6.5cmとしているが、小片の実測ため、径がもう少し大きくなるかもしれない。53は平底で高さが1.2cmと低い。3点ともAタイプである。54は厚手のつくりのCタイプで、口縁端部をつまんで仕上げている。SI04は土筒器皿片の出上が多いが、他に実測には至っていない珠洲焼の破片や鉄製品も出土している。55～57はSI05から出土した何れもAタイプの土師器皿である。57は平底で口縁は8.1cmを測る。器高は低く立ち上がりも弱い。底部内面に強いナデ痕が残る。58はA区SD02から出土した瀬戸美濃の天目茶碗である。外面の露胎部分が僅かに確認できる。59はSD03出土のAタイプの土師器皿である。深身タイプのもので内外面磨耗が著しいが体部下半外面に指圧痕が残っている。60～64は近世満SD07より出土したもので60は口縁内外面に灯芯油痕が付着しており、灯明皿に使用したものである。61は珠洲焼の壺である。口縁～頸部のみの出土で叩き痕が僅かに確認できる。

62・63は珠洲焼すり鉢である。63は底部のみで鉢目を9本確認できた。底部外面には工具痕が深く残っている。64は瀬戸美濃の折線小皿である。65は近世満SD08から出土した土師器皿である。66・67はSD09出土のもので、67は越前焼の鉢である。鉢目は確認できないが、内面が滑らかなことからすり鉢として使用されたと思われる。68～70は近世満SD12のもので、68・69は瀬戸美濃で、68は形状から入子と思われ、69は鉢皿で底部外面に糸切りの痕跡を見ることができる。70は白磁皿で、高台部分に1ヶ所の抉り込みと、底部内面には1ヶ所の胎目を確認している。71～73はピットから出土したものである。71はP04の土師器皿で、口縁内外面に煤が付着しており、灯明皿として使用している。72はP03から出土のAタイプの土師器皿である。口縁径が15cmで大型の類になる。外面に横ナデによる稜をもつ。実測には至らなかったが同一ピットから他にも土師器皿が数点出土している。74～80は壁面及び包含層出土の土器・陶磁器である。76・77は瀬戸美濃で、76は縁袖小皿で、口縁内外面に施釉されている。77は底部のみの出土であるがおそらく平底木広甕になる。底部外面に回転糸切りの痕跡と僅かであるが灰釉が確認できる。78は瀬戸美濃の合子の蓋になると思われる。79は青磁の筒型碗で、高台は低く底部外面は無釉である。

81・82は砥石である。81は長辺4面に使用痕が確認できる。82は1面のみ使用痕を確認できたが他は大きく欠損している。

註 土器や陶磁器の分類・年代決定については以下の文献を参考にした。

- 柳田 祐司 2006「加賀・能登の様相」『中世北陸のカワラケと輸入陶磁器・瀬戸美濃製品』北陸中世考古学研究会  
藤田 邦雄 1997「第2章 第2節 中世加賀国の中世土器の様相」『中世の北陸II』 北陸中世土器研究会編  
吉岡 康暢 1994「中世須恵器の研究」 古川弘文館  
藤沢 良祐 2008「中世瀬戸窯の研究」 高志書院

## 第5節 小 結

今回発掘調査では縄文時代、弥生時代、古代、中世、近世の遺構・遺物を確認することができた。

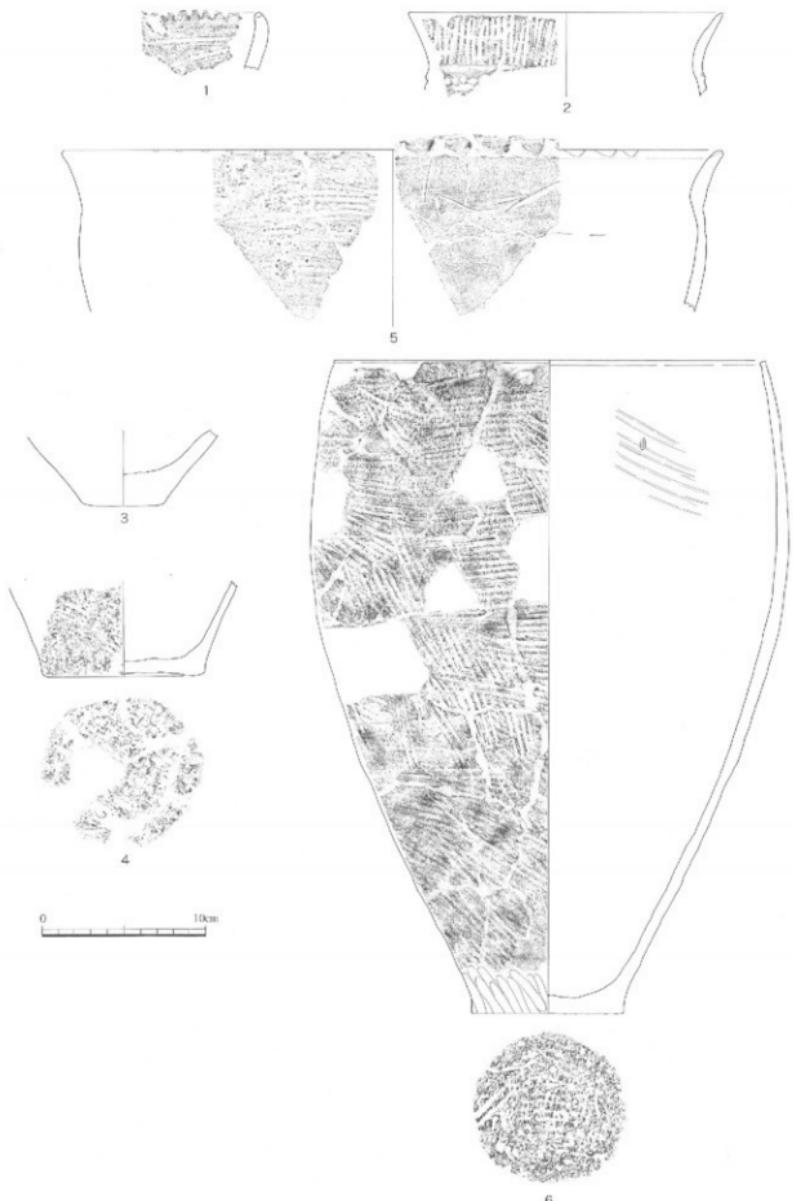
縄文時代では、遺構からの出土はSB01柱穴からの出土だけである。これについてはSB01が中世の遺構であることから流れ込みによるものとする。その他は包含層、自然河道からの出土であった。自然河道については弥生初期の遺物も確認されており、この時期までは河として機能していたことが分かる。弥生時代では竪穴建物など集落であると決定付ける遺構は確認していない。ピットなどから遺物の出土が見られ、周辺地の調査では弥生時代の集落跡を確認していることから、当該地における人の動きがあつたことが窺える。

古代については、SI01・02の2棟を確認している。掘立柱建物は確認していない。SI01は8世紀後半、SI02は8世紀中頃のものである。2棟には時期に差があることから、SI02が建てられた後、何らかの理由で廃絶後、SI01へ移動したと推察する。

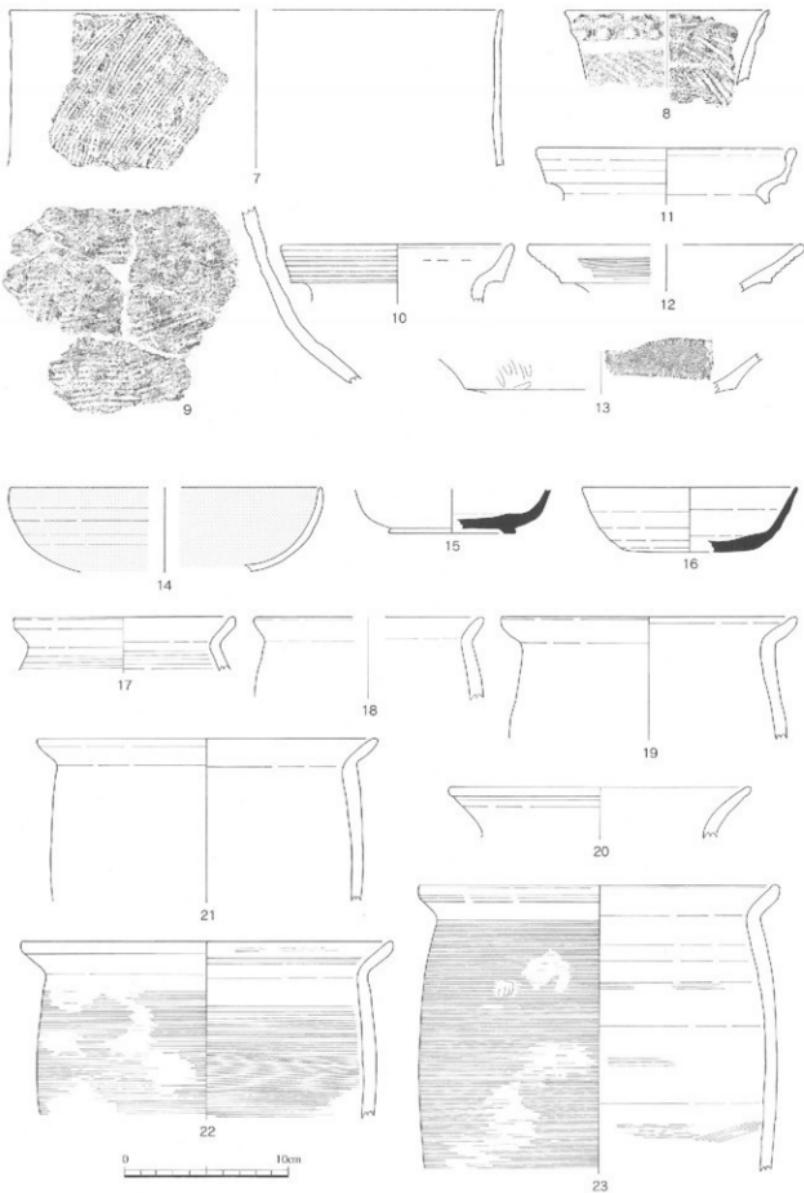
中世では主な遺構として掘立柱建物、竪穴状遺構、土坑、溝などが確認されている。中世遺構から出土した遺物については土師器皿、珠洲焼すり鉢、越前焼すり鉢などが出土している。時期は14世紀中頃～後半とする。掘立柱建物から遺物は出土していないが、当調査で出土した遺物、周辺調査の中世集落の時期から判断して掘立柱建物も当該期のものと考えられる。

3棟の掘立柱建物は建て替えの痕跡は確認しておらず同時期に存続していたと推察する。SB03内で確認したSI03から遺物は出土していないがSB03とセット関係になる可能性がある。C区で確認したSI04・SI05周辺からは掘立柱建物は検出していない。

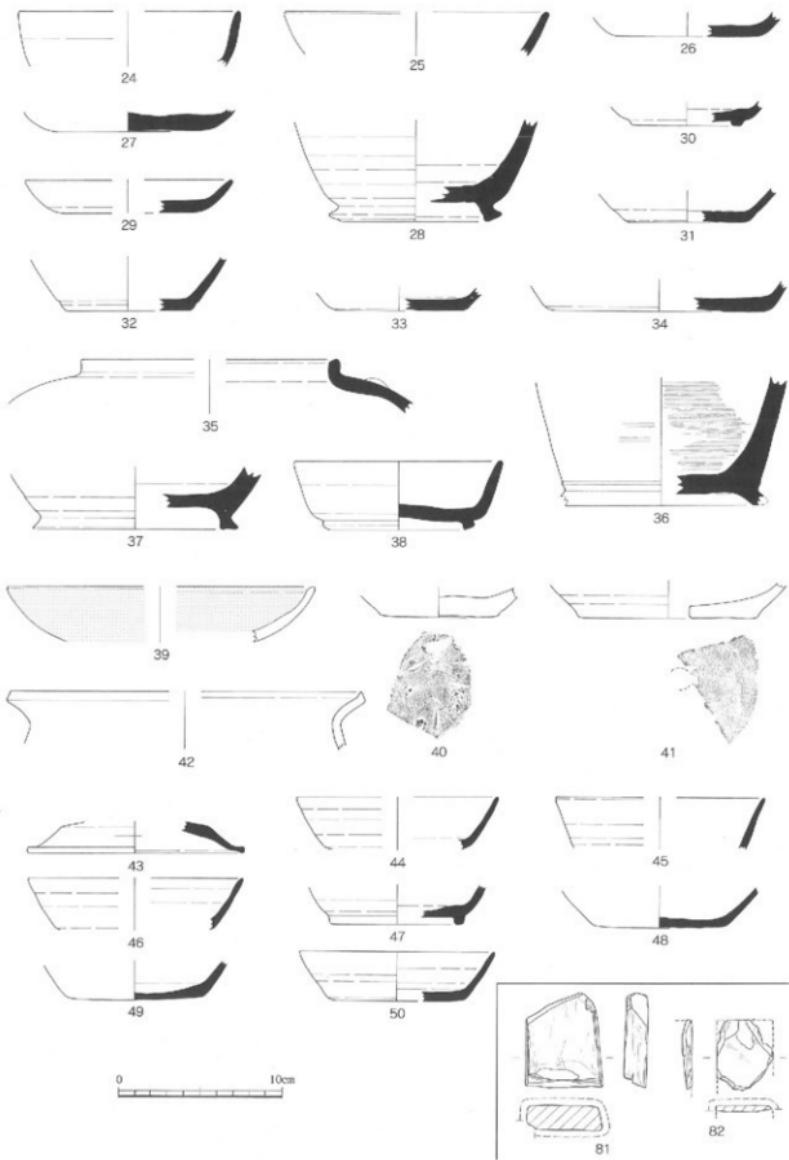
近世については溝のみ検出している。自然河道、農業用水として使用されていたと思われるが溝内からは近世期はもちろん、今回の調査時期以外の時期の遺物も出土していることから、調査地周辺に別時期の集落域の存在の可能性も考えたい。



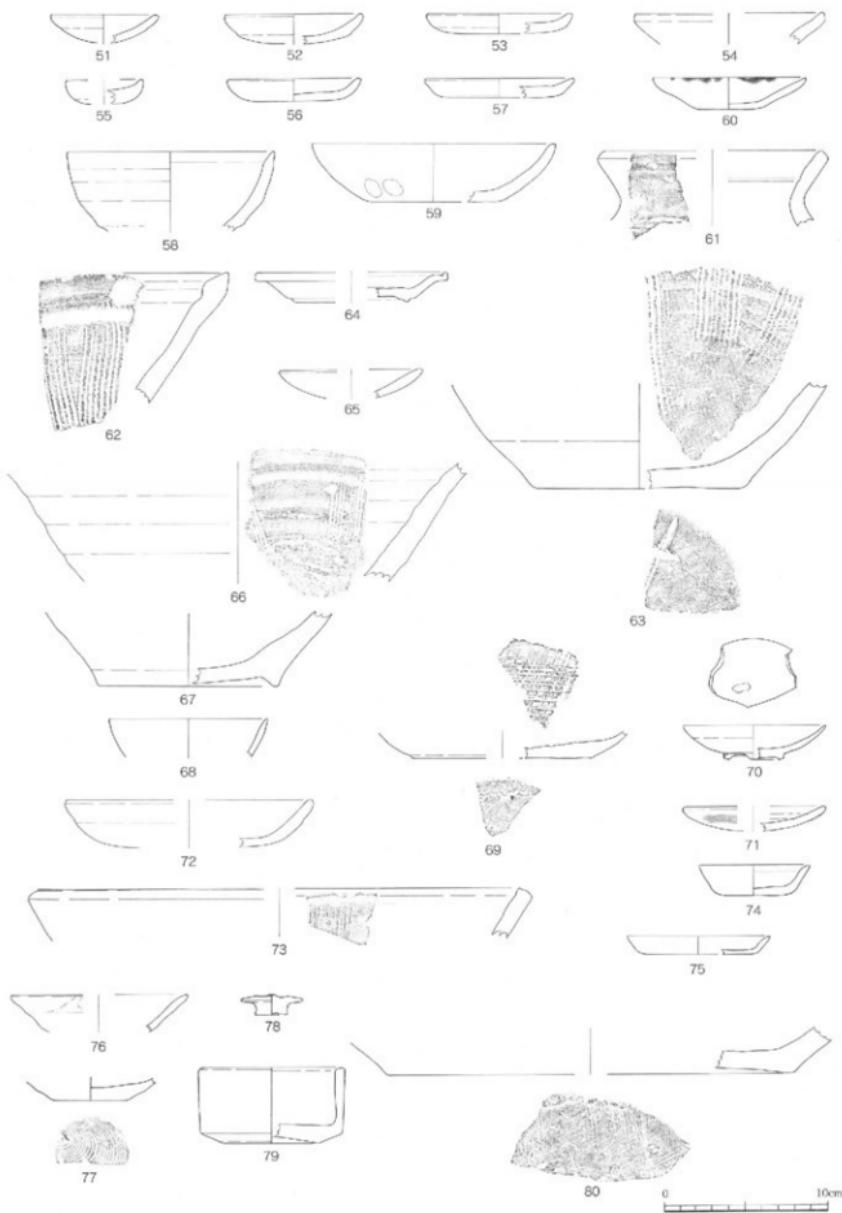
第16図 出土遺物実測図1 ( $S = 1/3$ )



第17図 出土遺物実測図 2 (S = 1/3)



第18図 出土遺物実測図 3 (S = 1/3)



第19図 出土遺物実測図 4 (S = 1/3)

第3表 出土遺物觀察表1

実測 番号	遺物 名	種類 (c)	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	色調(内) 色調(外)	調整(内) 調整(外)	底存率	参考	番号
1	HAK 包含器	瓶				に赤い模様 に赤い模様、に正白・黄褐色		口縁小片		155
2	DIA 透天	透天	19.2			に赤い模様		口縁小片	外裏に底付帯	181
3	DAK 包含器	瓶	5.0			に赤い模様	ケヌリ	底部1/2		193
4	A区 自然河道	瓶	36.0			に赤い模様、黒褐色			深褐色計あり 内裏に底付帯	81
5	SACHP7 開口	瓶	42.4			に赤い模様、柱状	角瓶、喇叭形	約1/3	輪筋あり、全色黒褐色あり 外裏に底付帯、底化物有り	1118
6	A区 自然河道	瓶	26.3	40.3	9.3	に赤い模様	角瓶	口縁わずか、瓶身 直進、底付帯	底筋計多くあり 内裏に本末混在あり	1110
7	A区 自然河道	瓶	30.2			に赤い模様、瓶底	角瓶	口縁小片	外裏に底付帯	182
8	A区 自然河道	瓶	12.6			に赤い模様、灰、灰褐色	赤彩	口縁1/4		183
9	A区 自然河道	瓶				に赤い模様	赤彩	底部小片	海藻青苔、赤色椎化物、 石英あり	追加A
10	A区 SD01	瓶	14.3			に赤い模様、復	角瓶	口縁1/2	赤色模、黒色模、石英あり 内裏に粘土混合物あり	192
11	A区 PE1	瓶	16.0			に赤い模様	子字	口縁1/7		119
12	AK SD05	瓶	17.0			赤灰模、底白、に赤い模様	圓筒形側面	口縁小片		171
13	AK SD10	瓶				に赤い模様	ヨコナラ、側面横	1/8	赤色模あり 内裏に暗赤い模様あり、尾形細か	114
14	BMS S001	上部蓋 壇	(19.2)			赤模	赤模、瓶身周囲 赤模、瓶身周囲	ヨコナラ、赤彩		117
15	BMS S001	底蓋	7.8			灰黃	赤模	口縁1/2		149
16	BMS S001	瓶	13.3	4.6		灰模、灰オリーブ	同軸ヘア削り			148
17	BMS S002	土被器	13.5			灰模	赤模	口縁1/7周		197
18	BMS S002	上部蓋 壇	(14.1)			灰模	ヨコナラ			196
19	BMS S002	上部蓋 壇	18.6			灰模	ヨコナラ	1/7	赤色模あり 内裏赤色に黒模	011
20	BMS S002	土被器	18.4			赤模	ヨコナラ	口縁1/8	赤色模あり	08
21	BMS S002	上部蓋 壇	20.8			灰模	ヨコナラ	1/7	赤色模あり 内裏赤色に黒模者しい	010
22	BMS S002	土被器	22.7			灰模	カキ目	1/4箇	赤色模あり	09
23	BMS S002	土被器	22.1			に赤い模様	ヨコナラ、カキ目	1/3箇	長石もしくは石英あり	06
24	BMS S002	彩色器 瓶	(13.5)			灰模	ヨコナラ	口縁小片	黒色模あり。内裏に底付帯？ 口縁外周に黒ねつき模様か？	07
25	BMS S002	底蓋	(16.1)			灰模	子字	口縁小片		098
26	BMS S002	底蓋	9.0			灰模	ヨコナラ	底部1/3		095
27	BMS S002	底蓋	9.5			灰模	ヨコナラ	底部1/2		06
28	BMS S002	底蓋	9.4			灰模	ヨコナラ	底部1/4	黒色模あり	099
29	BMS S006	底蓋	(12.6)	(2.1)	8.0	灰模	ヨコナラ、同軸ヘア模	底部小片	ヨコナラ、同軸ヘア模	099
30	BMS S006	底蓋	5.7			灰模	ヨコナラ	底部1/4		0117
31	BMS S006	底蓋	7.4			灰模	ヨコナラ	底部1/3		0119
32	BMS S006	底蓋	7.6			灰模	ヨコナラ	底部1/4		0116
33	BMS S006	底蓋	8.2			灰模	ヨコナラ			060
34	BMS S006	底蓋	13.2			灰模	ヨコナラ	1/4箇		0118
35	BMS S006	底蓋	(15.6)			灰模	ヨコナラ	口縁小片	外裏に一部灰くわあり	0115
36	BMS S006	底蓋	11.9			灰模	ヨコナラ	1/5箇	自然隕灰	0113
37	BMS SD006	底蓋	12.6			灰模	ヨコナラ	底部1/7		0114
38	CDA F22	底蓋	12.7	4.2	8.0	灰模	ヨコナラ	口縁3/4、 底部完形	自然模あり	012
39	CDA S001	土被器	(18.6)			明赤模	ヨコナラ	口縁小片	内外面に底付帯	0107
40	DIA 包含器	透天	7.3			に赤い模様	ヨコナラ	粗筋1/3		164
41	DIA 包含器	透天	11.6			に赤い模様	ヨコナラ	底部1/5	底部厚化	1123
42	DIA 包含器	透天	(22.0)			に赤い模様	ヨコナラ	口縁小片		180
43	DIA 包含器	透天	13.4			灰模	ヨコナラ	1/6		161

第3表 出土遺物観察表2

実測番号	遺物	種類	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	色調(内)		調整(内)	現存率	備考	番号
						赤調(外)	調整(外)				
44	D区 混合層-表面	米字型	(12.4)			灰	灰		1/9		H73
45	D区 混合層-表面	片	(12.8)			灰	灰		白極小片		H76
46	D区 混合層-表面	片	(13.2)			灰黒	灰黒		白極小片		H79
47	D区 混合層-表面	片	8.4			灰	灰		武部 1/5		H77
48	D区 混合層-表面	片	8.2			灰	灰	回転ヘラ削り	成部 1/3		H75
49	D区 混合層-表面	片	8.4			灰黒	灰黒	回転ヘラ削り	成部 1/1	焼成不良	H78
50	D区 混合層-表面	片	12.0	3.06	8.6	灰、灰白 灰、灰白	灰、灰白	回転ヘラおこし?	1/3		H72
51	C区 S304	土器	6.5	1.6	1.5	砂	砂	ナゲ			O102
52	C区 S304	土器	8.4	1.8	3.0	灰い-帶 灰い-帶	灰い-帶 灰い-帶	ナゲ	1/3	黑色度あり	O100
53	C区 S304	土器	8.8	1.2	5.0	砂	砂	ココナラ	1/5薄	赤色度あり 武部外墨頭丸	O103
54	S304	土器	(11.6)			灰青色 浅青色	灰青色 浅青色	ココナラ	白極小片		O101
55	C区 S305	土器	(4.7)	0.55	0.20	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	ナゲ	小片	赤色度あり	O106
56	C区 S305	土器	8.1	1.4	4.9	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	ナゲ	1/5	赤色度あり	O104
57	C区 S305	土器	9.0	1.3	6.4	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	ナゲ	1/6	赤色度あり 滑び度なし	O105
58	A区 SD06	麻布瓦	12.5			オリーブ灰、灰白 オリーブ灰、灰白、黒	オリーブ灰、灰白、黒	陶輪(鉄地)	口幅わざか 外唇 1/12	褐色度あり	N90
59	A区 SD06	土器	14.8	3.6	8.0	淡黄灰、白 淡黄灰、白	淡黄灰、白	指江瓶	1/4	赤色度あり 若松葉らしい	N94
60	A区 SD07	土器	9.4	2.0	4.2	灰 灰 灰	灰 灰 灰	ナゲ	1/7	口縁端部に擦、炭化物付着	H254
61	A区 SD07	土器	14.09			灰	灰		口極小片	滑び度好あり	H38
62	A区 SD07	土器				灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	ナゲ	口極小片		H82
63	A区 SD07	土器		13.2		灰	灰		成部 1/5	滑び度好あり	H86
64	A区 SD07	土器	(13.4)			灰 灰 灰 灰	オリーブ灰 オリーブ灰 オリーブ灰 オリーブ灰	陶輪	小片		H87
65	A区 SD08	土器	18.8	1.80	0.10	淡黄灰 淡黄灰	淡黄灰 淡黄灰	ナゲ	小片		O16
66	A区 SD08	土器				灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	コクロナゲ、津日 コクロナゲ コクロナゲ	白極小片	滑び度好あり	N80
67	A区 SD09	土器			11.0	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	コクロナゲ、津日 コクロナゲ コクロナゲ	成部 1/4		N90
68	D-E区 SD10	土器	9.5			灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	口極小片			H70
69	D-E区 SD12	土器			11.2	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	高目 高切り型 窓口 窓口	成部 小片		H69
70	D-E区 SD12	土器	8.7	2.1	3.7	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	窓口(口幅) 窓口(口幅) 窓口(口幅) 窓口(口幅)	1/6	高台執事込み(15C09-16期) 巣上面あり	H68
71	C区 P05	土器	18.6	1.51	0.10	淡黄灰 淡黄灰	淡黄灰 淡黄灰	ナゲ ナゲ	小片	内外面に炭化物付着 口縁部に剥離着	O106
72	C区 P05	土器	15.05	2.30	0.95	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	ココナラ、ナゲ ココナラ、ナゲ	1/9	赤色度あり	O13
73	C区 P05	土器	29.0			灰白 灰白 灰白 灰白	灰白 灰白 灰白 灰白	ココナラ ココナラ ココナラ ココナラ	口極小片	滑び度好あり	O109
74	B区 混合層	土器	6.8	1.9	5.0	帶 帶 帶	帶 帶 帶	ココナラ ココナラ ココナラ	1/4		H51
75	空面	土器	8.8	1.1	7.3	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	ナゲ ナゲ ナゲ ナゲ	1/7	赤色度あり	H266
76	空面	土器	(10.8)			オリーブ灰 オリーブ灰 オリーブ灰、淡黃	オリーブ灰 オリーブ灰 オリーブ灰、淡黃	陶輪	口極小片		H448
77	壁面	土器			4.6	灰白 灰白 灰白 灰白	灰白 灰白 灰白 灰白	高切り型 高切り型 高切り型 高切り型	成部 1/2		H261
78	南区 混合層	土器	1.25	2.0		灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	陶輪(火候) 陶輪(火候) 陶輪(火候) 陶輪(火候)	1/2		H56
79	南区 混合層	土器	9.0	4.7	6.0	灰 灰 灰 灰 灰 灰	オリーブ灰 オリーブ灰 オリーブ灰 オリーブ灰 オリーブ灰 オリーブ灰	陶輪(火候) 陶輪(火候) 陶輪(火候) 陶輪(火候) 陶輪(火候) 陶輪(火候)	1/3		H50
80	D区 混合層	土器			25.0	灰 灰 灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰 灰 灰	陶輪(火候) 陶輪(火候) 陶輪(火候) 陶輪(火候) 陶輪(火候) 陶輪(火候)	成部 1/8		H33

出土石製品觀察表

実測番号	遺物	形種	寸法	細大長			粗大厚	質量	石材	備考	実測番号
				(cm)	(cm)	(cm)					
81	D区 混合層	砾石		5.8	4.6	1.3		55.0			H122
82	D区 混合層-板状	砾石		4.3	3.5	0.6		3.0			H124

## 第5章 第19次調査

### 第1節 発掘・整理作業の経過

第19次調査は、都市計画道路建設に先立つ調査であり、平成17年7月6日に着手し、同年11月23日に現地における作業を終している。調査面積は2,506m<sup>2</sup>である。なお、発掘調査報告は平成17年5月24日付教文第57号にて提出している。

調査着手当初は、予定地の北側部分に薔薇園のハウスが残っていたため、南側から順に北へ延伸していく方法で進めた。調査区を設定した後、遺構上面までの表土を除去し、7月14日より人力による遺構検出作業を開始した。作業の内容は発掘作業員による遺構削除や調査員による記録作業及び調査区内の遺構写真撮影などである。途中、作業の進捗状況にあわせて現道や水路などの区切りごとに空中写真測量を実施した。撮影した回数は延べ3回である。

出土品の整理作業は、平成21年度に行なった。内容は、出土品の洗浄と記名・分類・接合及び実測作業であり、一貫して1名の整理作業員が担当した。並行して現地で作成した記録図や図面編集、出土品の写真撮影及び原稿執筆等を行い平成24年3月30日までにすべての作業を終了した。

### 第2節 調査の方法

調査の方法は、現状により調査区中ほどを東西に伸びる現道を境にその南側及び北側と、水路で区画された薔薇園のハウス部分の大きく3か所に区分して行った。重機で遺構上面までの表土を慎重に除去した後、作業員による包含層の掘り下げ及び遺構検出を行い、並行して1/100の遺構略測図を作成した。遺構検出時に、当該地(特に北側)には相当規模の掘立柱建物が存在することが判明していたため、建物の全体像を把握した上で柱穴の半裁方向を確認しながら掘削を進めた。その他、それぞれの遺構についても必要に応じて土層断面を確認しながら調査を行った。

### 第3節 遺構

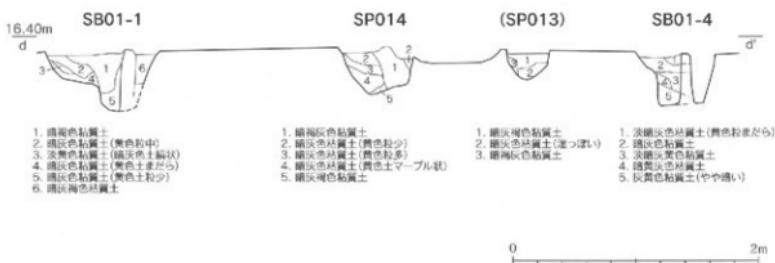
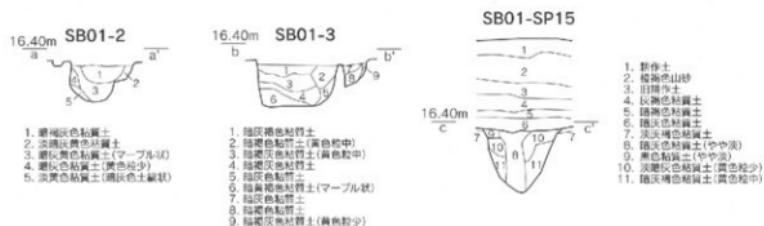
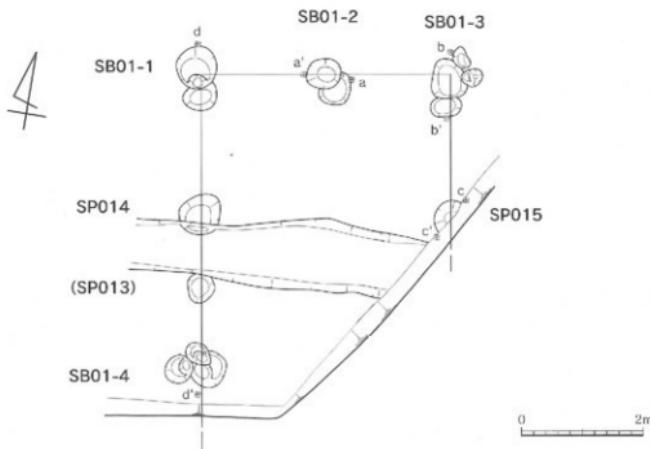
今次の調査区は、南側に中世段階の土坑や性格不明遺構が多く確認されており、中央部分には性格不詳の小穴群が集中している。また、古代の掘立柱建物群は北側に集中して展開する傾向がみられ、その方位軸も西へ20~26度程度大きく振れており、周辺で確認されている同時期の建物と比較してもその振れ幅が大きいことが特色である。その他、紙数の制限もあるため個別の詳細については遺構観察表(第4~5表)を参照していただきたい。

### 第4節 遺物

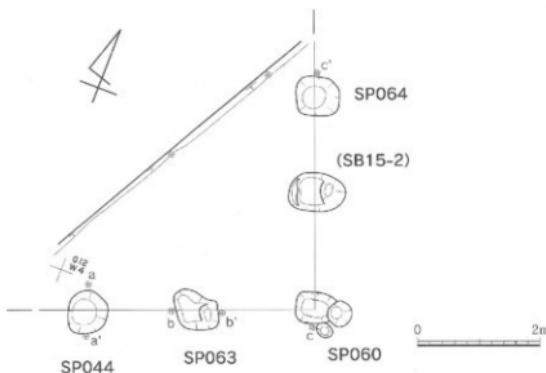
代表的なもの81点を掲載した(第33~36図)。掘立柱建物群が多く展開する北側調査区から出土したものが多く、南側の中世期の遺構から出土したものは小片がほとんどであり、その量も少ない。概ね9世紀後半代のもので占められており、建物群の時期を知る上で有効な資料である。詳細は遺物観察表(第6表)を参照していただきたい。

### 第5節 小結

今次の調査で特徴的なものは、2×7(8)間の大型建物SB-09である。前述したとおり建物の方位軸は西へ26度と大きく振れており、その向きは平成14~18年度にかけて確認された古代北陸道にはほぼ直行しており、その性格が注目されるが、最も長く古代北陸道が確認された調査区(平成16年度・第9・10次調査-南東方向へ約150m)との間には国道8号が走っており、また周辺の民地についても調査が実施されていない部分が多く残されている。墨書き器などの有効な資料が確認されていない現状では、確証は持てないが9世紀前半代から10世紀初頭にかけて廃止された石川郡内の駅家である可能性も考えておきたい。

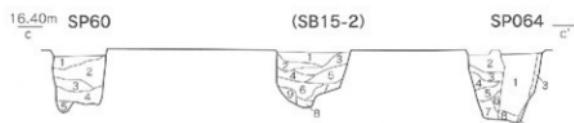


第20図 SB01(平面図S=1/80、断面図S=1/40)



1. 鮎谷魚粘質土
2. 鮎谷魚粘質土(黄色少)
3. 鮎谷魚粘質土(マーブル状)
4. 淡黃色粘質土(鮎谷土まだら)
5. 鮎谷魚粘質土(鮎色鉄少)
6. 淡黃色粘質土(マーブル状)
7. 淡黃色粘質土(マーブル状)
8. 淡黃色粘質土(マーブル状)
9. 淡黃色粘質土(マーブル状)
10. 鮎谷魚粘質土(黄色鉄少)
11. 鮎谷魚粘質土(黄色鉄少)

1. 鮎谷魚粘質土
2. 鮎谷魚粘質土(黄色鉄少)
3. 鮎谷魚粘質土(黄色鉄少)
4. 淡灰色粘質土
5. 鮎谷魚粘質土(黄色ブロック)
6. 淡白色粘土
7. 次陸火成粘質土(黄色鉄少)
8. 淡灰色粘質土



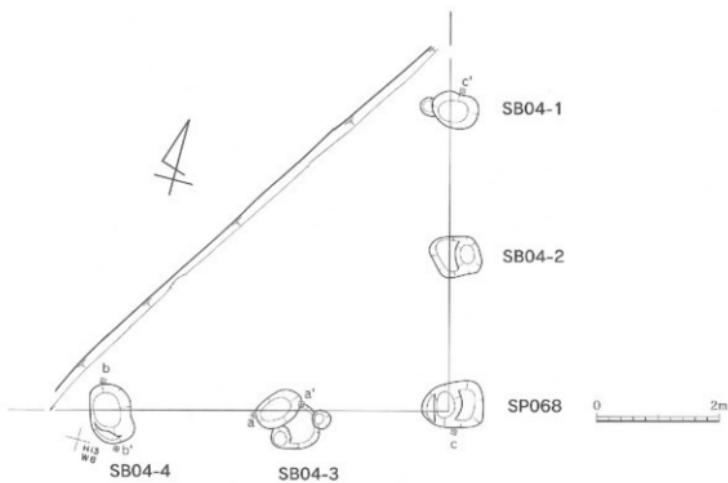
1. 鮎谷魚粘質土
2. 淡黃色粘質土(黄色少)
3. 淡灰色粘質土(マーブル状)
4. 淡黃色粘質土
5. 淡黃色粘質土(鮎谷土シミ状)

1. 鮎谷魚粘質土
2. 淡黃色粘質土(マーブル状)
3. 鮎谷魚粘質土
4. 鮎谷魚粘質土(マーブル状)
5. 淡黃色粘質土(黄色鉄少)
6. 淡黃色粘質土(マーブル状)
7. 淡黃色粘質土(黄色少)
8. 淡黃色粘質土
9. 淡黃色粘質土(鮎谷土シミ状)

1. 鮎谷魚粘質土
2. 淡黃色粘質土(マーブル状)
3. 淡灰色粘質土(黄色少)
4. 淡灰色粘質土(黄色ブロック)
5. 淡灰色粘質土(黄色少)
6. 淡灰色粘質土(マーブル状)
7. 淡黃色粘質土(黄色少)
8. 淡灰色粘質土(黄色土シミ状)

0 2m

第21図 SB03(平面図S=1/80、断面図S=1/40)



16.40m SB04-3



1. 深灰褐色粘質土
2. 暗灰褐色粘質土(黄色ブロック少)
3. 暗灰褐色粘質土(黄色较少)
4. 暗灰褐色粘質土
5. 暗黄褐色粘質土(やや緑色)
6. 淡黄褐色粘質土(暗灰色土まだら)

16.40m SB04-4



1. 暗褐色粘質土(やや淡い)
2. 暗灰色粘質土(黄色粒少)

16.40m SP068



1. 深褐色粘質土
2. 暗褐色粘質土(暗灰色土少)
3. 暗灰色粘質土(黄色相中)
4. 深灰褐色粘質土(まだら)
5. 深灰褐色粘質土
6. 暗褐色粘質土
7. 淡黄褐色粘質土
8. 淡黄褐色粘質土(塊山)

SB04-2



1. 深褐色粘質土
2. 暗褐色粘質土(暗灰色土マーブル状)
3. 暗灰色粘質土(黄色少)
4. 淡灰褐色粘質土(黄色相中)
5. 淡黄褐色粘質土(暗灰色土少)

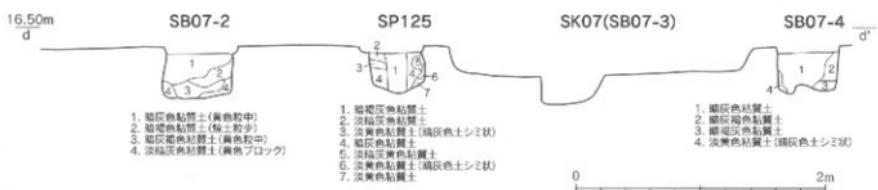
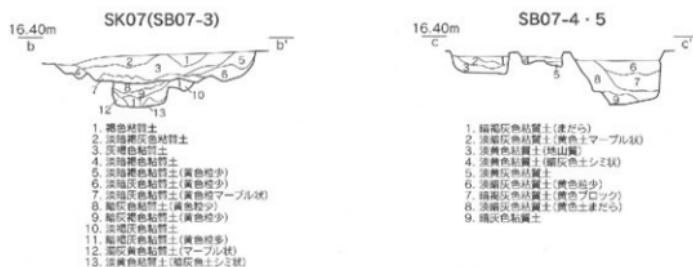
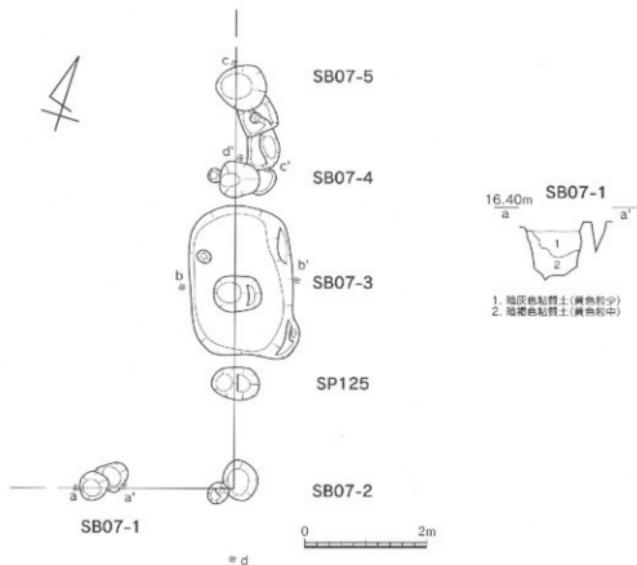
SB04-1



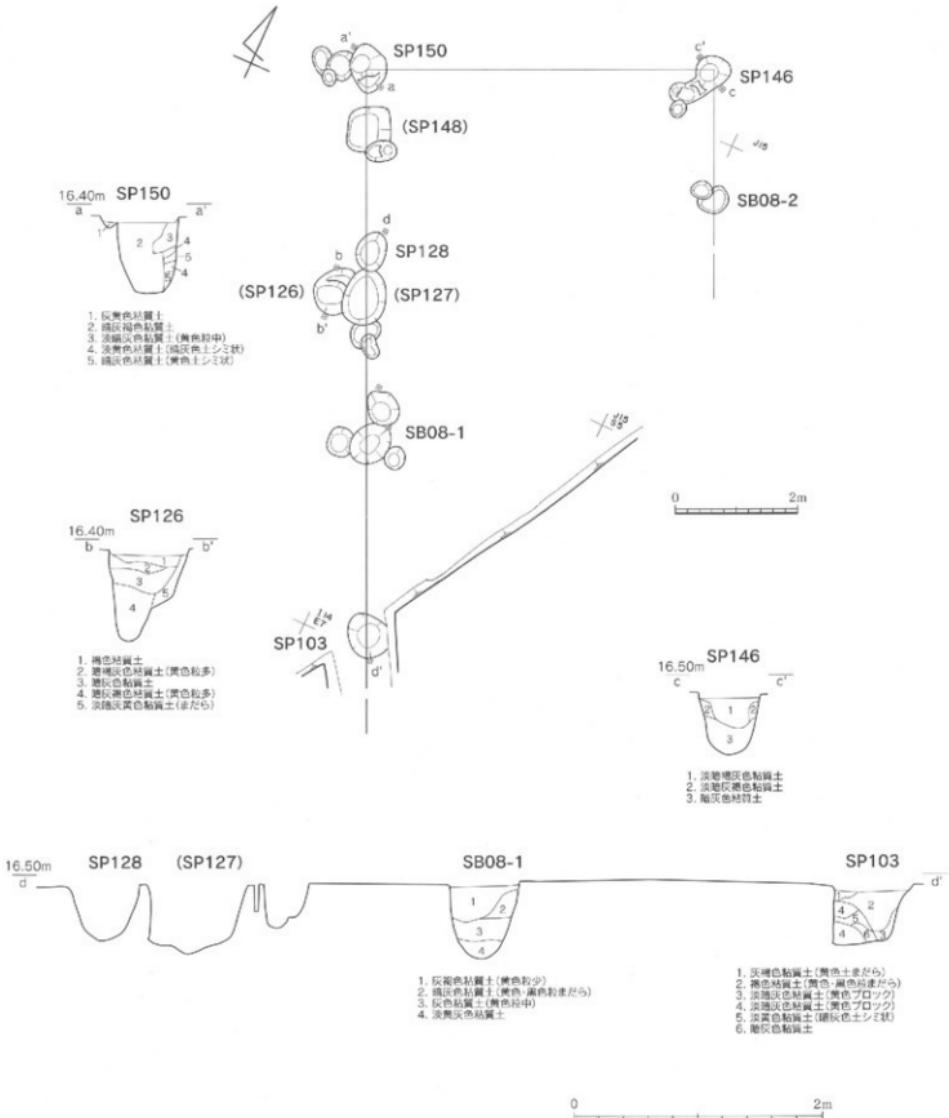
1. 暗褐色粘質土
2. 暗褐色粘質土(黄色少)
3. 暗褐色粘質土(黄色少)
4. 淡灰褐色粘質土(黄色少)
5. 淡黄褐色粘質土

0 2m

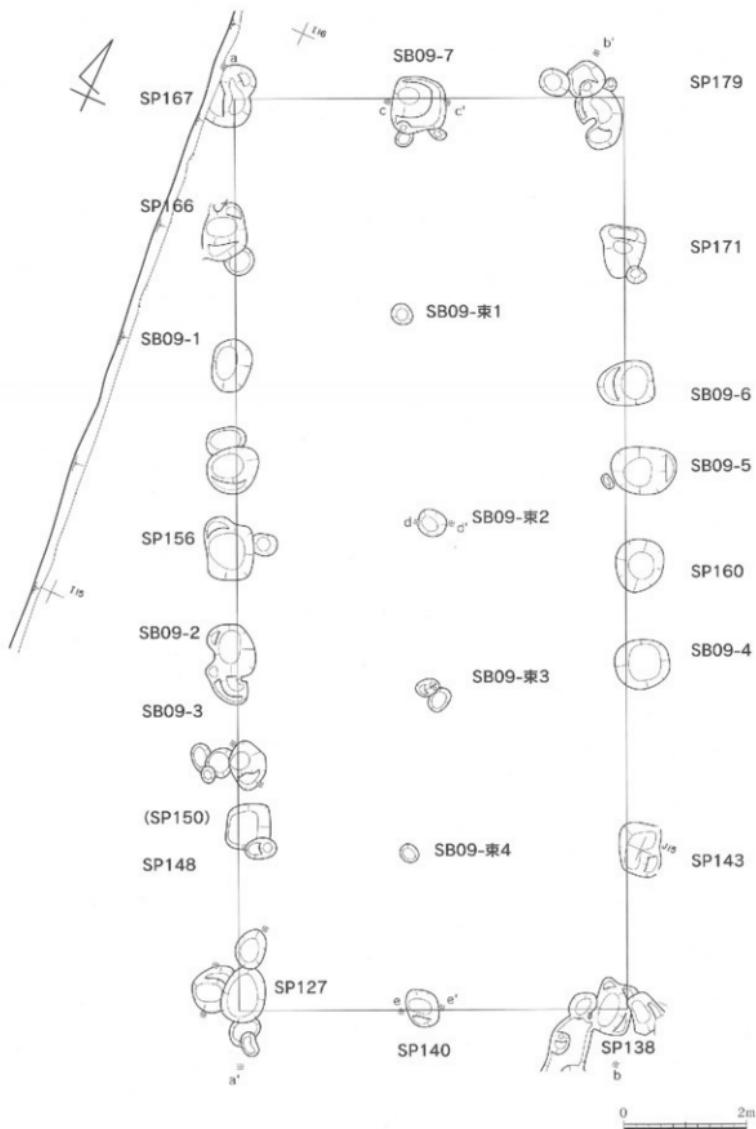
第22図 SB04(平面図S=1/80、断面図S=1/40)



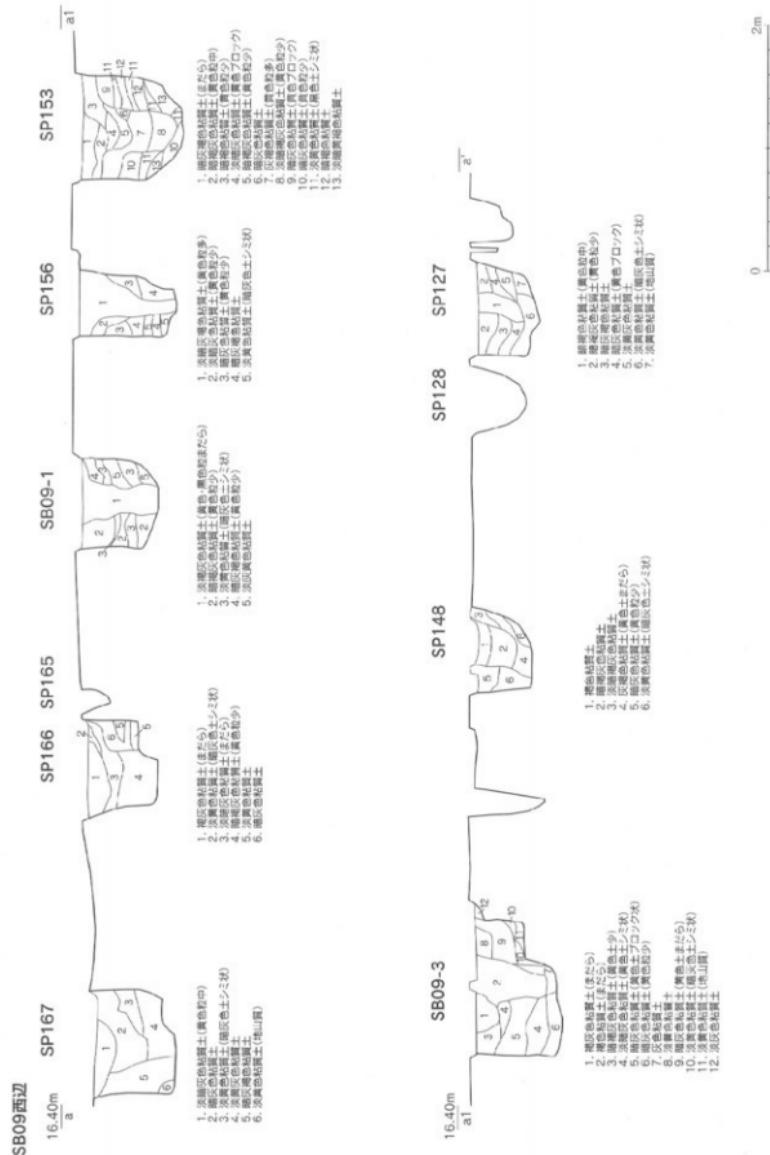
第23図 SB07(平面図S=1/80、断面図S=1/40)



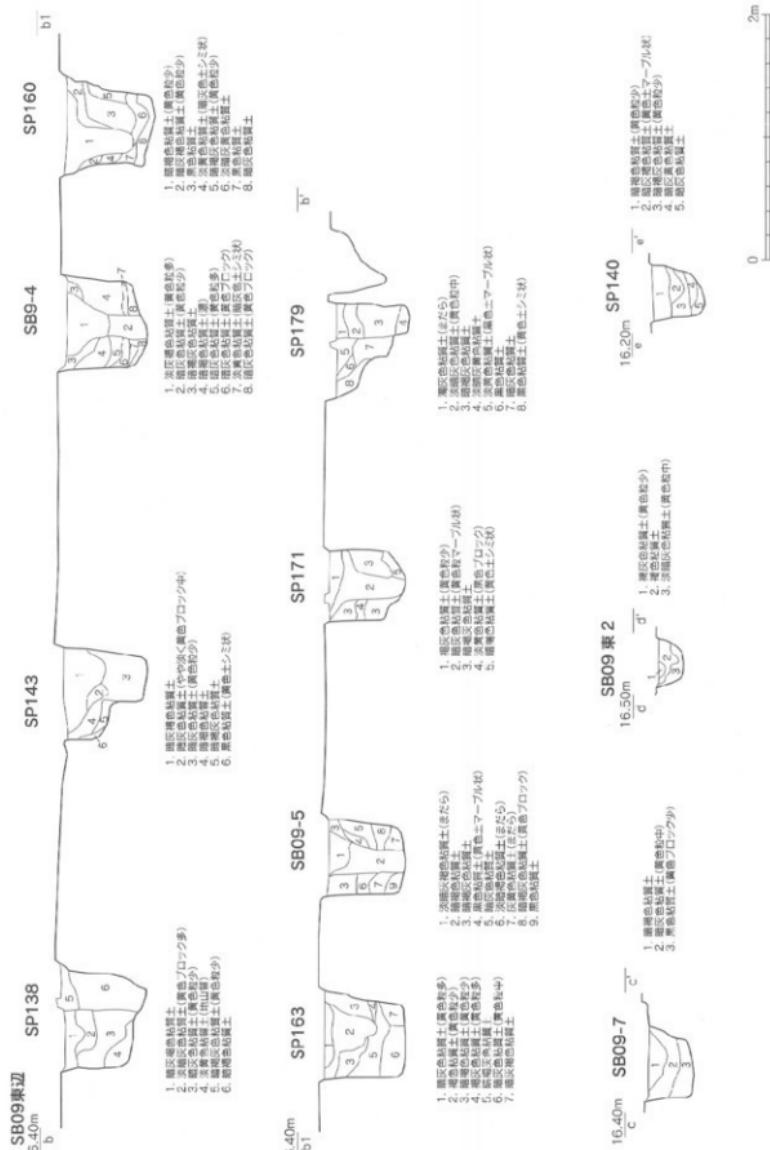
第24図 SB08(平面図S=1/80、断面図S=1/40)



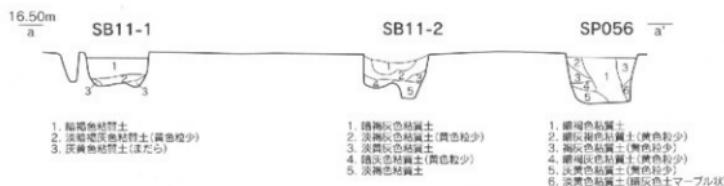
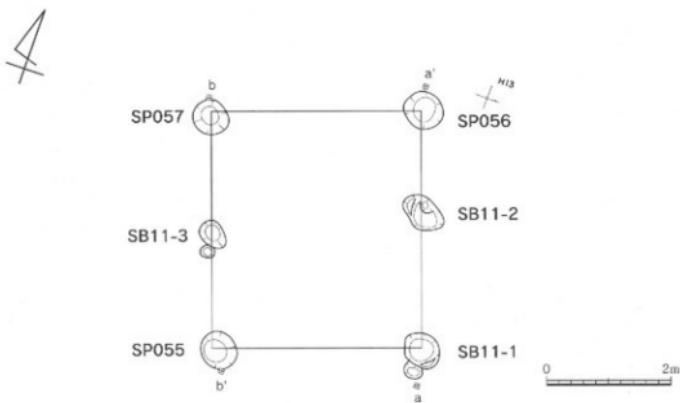
第25図 SB09(平面図S=1/80)



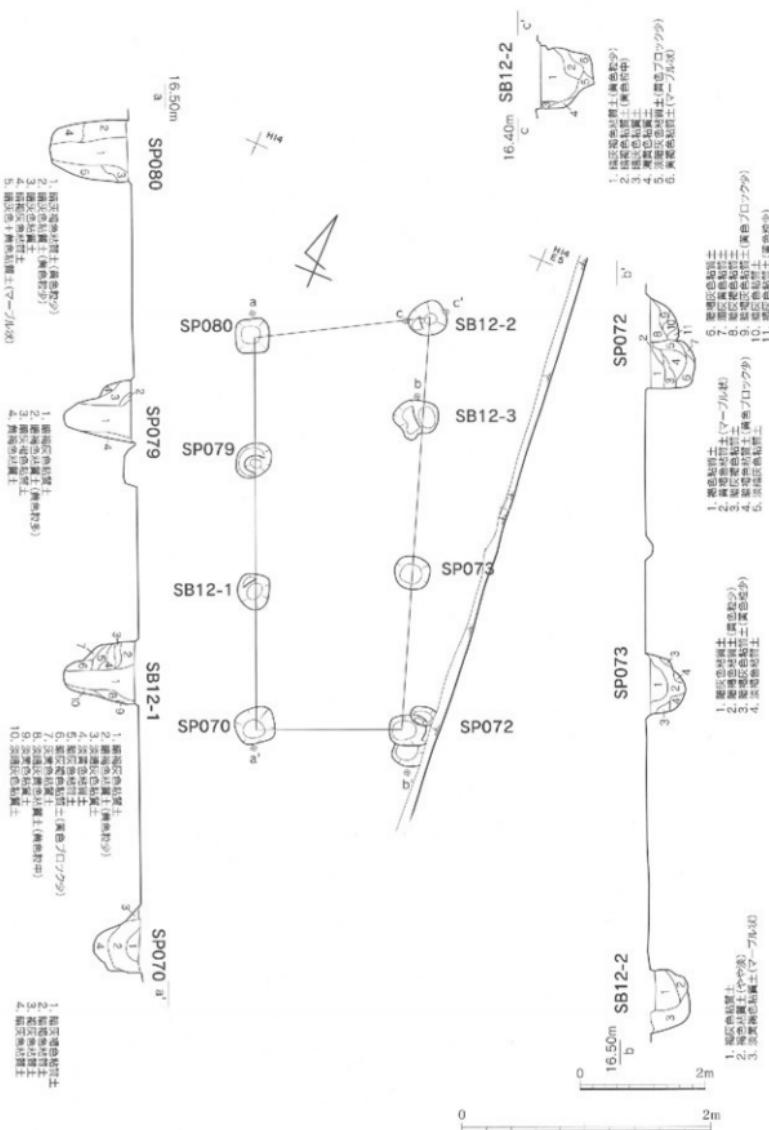
第26図 SB09西辺断面図(断面図S=1/40)

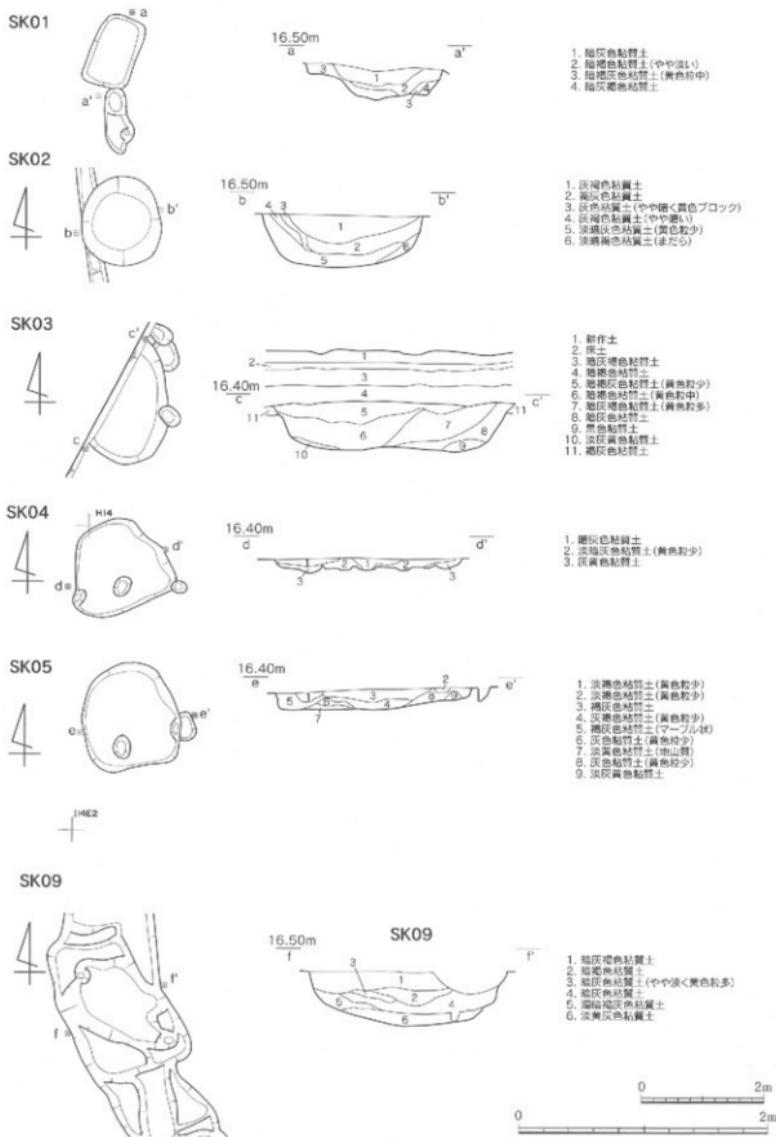


第27図 SB09東辺ほか断面図 (S=1/40)



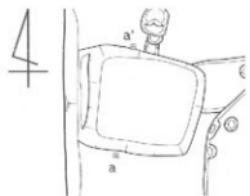
第28図 SB11(平面図S=1/80、断面図S=1/40)





第30図 SK01～05・09(平面図S=1/80、断面図S=1/40)

SX01

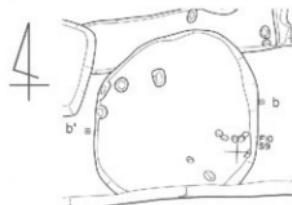


16.50m



1. 深褐色粘質土
2. 淡褐色粘質土
3. 紅褐色粘質土
4. 淡褐色粘質土
5. 淡褐色粘質土
6. 淡褐色粘質土

SX02

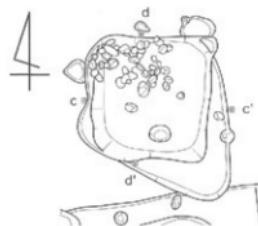


16.50m



1. 灰褐色粘質土(黄色粒少)
2. 顶白色粘質土
3. 褐色粘質土(やや暗い)
4. 灰褐色粘質土(黄色粒多)

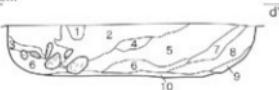
SX03



16.50m



16.50m



1. 反色粘土
2. 反青色粘質土(マーブル状)
3. 反褐色粘質土(褐色ブロック)
4. 反褐色粘質土(マーブル状)
5. 反褐色粘質土
6. 反色粘質土(東面で無色ブロック)
7. 暗灰色粘質土(黄色粒少)
8. 褐色粘質土(無色ブロック)
9. 暗褐色粘質土(やや暗い、黄色粒少)
10. 暗灰色粘質土(やや暗い、薄っぽい)
11. 反色粘質土(無色粒少)
12. 暗灰色粘質土(黄色土緑状)
13. 反褐色粘土
14. 淡褐色粘質土(まだら)
15. 海淡褐色粘質土

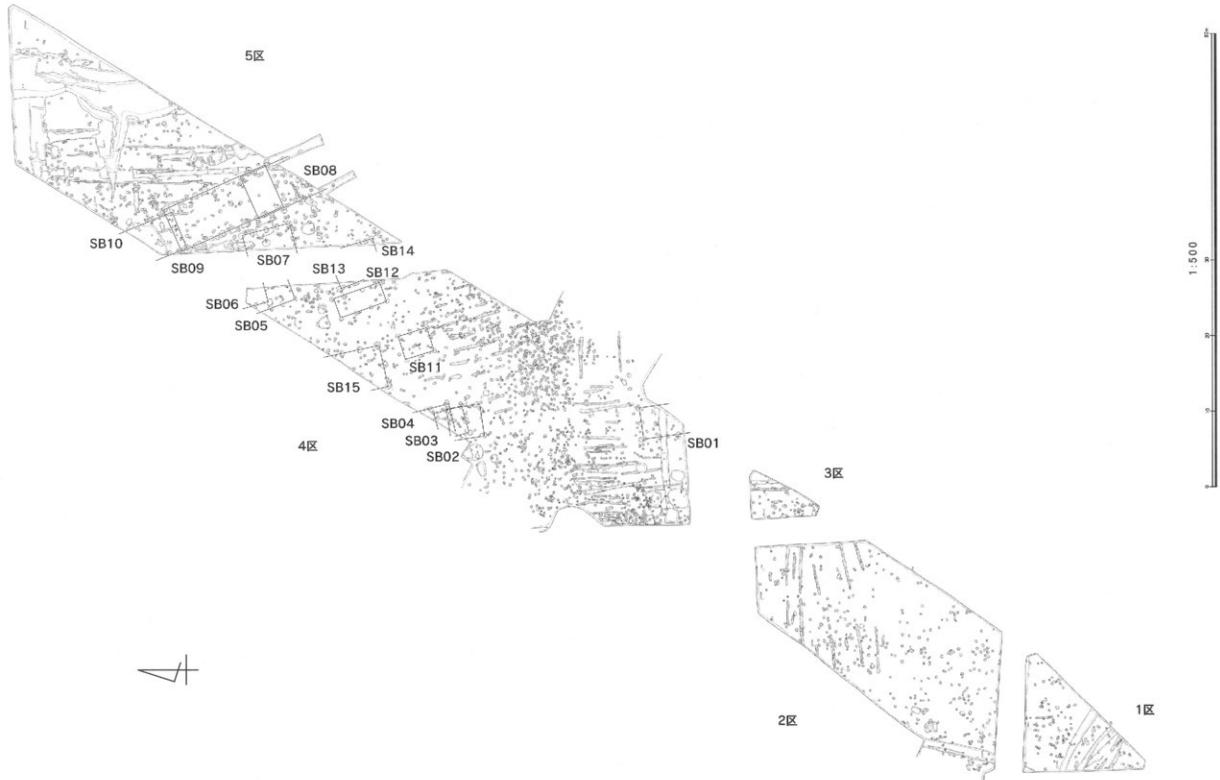
※東南側から埋められている。

0 2m

0 2m

第31図 SX01～03(平面図S=1/80、断面図S=1/40)





第32図 遺構全体図 (S=1/500)

第4表 堀立柱建物一覧表1

造構	グリッド	施	長幅 cm	地盤 状況	梁	所	構成SP	尺径 cm	短径 cm	深幅 cm	セクションNo.	遺物編織番号	その他
SB01	F~G9	N-11'-W	550+	400	2+	2	SP01-1	72	68	32	GE		
							SP14	68	65	29			切り合い
							SP01-4	60	58	40			切り合い
							SP15	50	28	25			調査区外
							SP01-2	60	51	39			GF
							SP01-3	67	58	37			切り合い
							SP05	70	63	24			FU
SB02	F~G12	N-16'-W	430+	380+	2+	2+	SP06	58	55	32	PT		切り合い
							SP06	63	38	27			切り合い
							SP03-1	50	120	23			調査区外
							SP04	68	65	65			切り合い
SB03	F~GH1~12	N-21'-W	440+	380	2+	2	SP15-2	95	65	42	PS		切り合い
							SP06	68	50	43			切り合い
							SP03	67	65	33			PS
							SP04	71	65	64			FR
							SP08	101	75	49			Fc
SB04	G13	N-15'-W	600+	550	2+	2	SD04-1	75	54	39	PA	MA19-016	切り合い
							SD04-2	79	67	69			切り合い
							SD04-3	80	53	38			切り合い
							SD04-4	95	67	41			Ea
SB05	H14	N-25'-W	480+	430+	2+	?	SP06	76	57	67	Pk		切り合い
							SD05-1	65	51	39			切り合い
							SD05-2	42	42	38			切り合い
							SP09	37	69	15			調査区外
SB06	H14	N-16'-W	310+	260+	2+	1+	SP08	85	73	18	PA	MA19-017	切り合い
							SD06-1	77	69	29			調査区外
							SD06-2	48	36	35			
							SD06-3	36	31	37			
SB07	H14~15	N-30'-W	600	330+	4	1+	SD06-4	36	32	23	PA	MA19-018	切り合い
							SP125	77	53	58			CJ
							SP137-1	48	47	58			切り合い
							SB07-2	78	69	59			CJ
							SB07-3	78	60	49			SB02の重複
SB08	I~J14~15	N-25'-W	940	580	3	1	SB07-4	66	62	62	PA	MA19-019	切り合い
							SB07-5	82	76	35			切り合い
							SP140	76	620	67			調査区外
							SP128	689	49	81			切り合い
							SP150	83	60	53			切り合い
SB09	I~J14~15	N-30'-W	1475	630	7	2	SP146	57	51	59	PA	MA19-020	切り合い
							SP08-1	75	62	76			切り合い
							SD08-2	47	147	62			切り合い
							SP149	64	51	59			調査区外
							SP138	79	659	84			切り合い
SB10	I~J14~15	N-25'-W	1475	630	7	2	SP143	92	67	91	PA	MA19-021	切り合い
							SP160	67	77	81			MA19-020
							SP171	89	71	74			切り合い
							SP179	55	69	77			切り合い
							SP09-1	97	64	75			
SB11	I~J14~15	N-25'-W	1475	630	7	2	SD09-2	92	75	106	PA	MA19-022	切り合い
							SP09-3	88	75	83			切り合い
							SD09-4	88	62	89			DG
							SP09-5	107	77	82			DG
							SP09-6	91	75	64			DG
SB12	I~J14~15	N-25'-W	1475	630	7	2	SD09-7	90	89	59	PA	MA19-023	切り合い
							RI1	37	35	42			
							RI2	46	43	29			DG
							RI3	44	39	17			切り合い
							RI4	32	20	18			

第4表 堀立柱建物一覧表2

造園	グリッド	種	長軸 cm	短軸 cm	高 さ	幅	構成SP	長径 cm	短径 cm	高さ cm	セクションNo.	造物開設番号	その他
SB10	I~J15~16	N-25'-W	840+	530	3+	1	SP165 SP169 SP168 SP182 SP187 SB10-1 SB10-2	49 55 65 71 69 51 65	133 48 59 45 88 1400 61	36 37 60 34 42 21 25	CR BB MA10-025 SB3と並列 調査区外	MA10-025	切り合い
SB11	G~H12	N-30'-W	380	350	2	1	SP95 SP97 SP98 SB11-1 SB11-2 SB11-3	65 65 62 65 76 55	59 58 55 55 55 34	47 43 44 40 55 22	PY EZ	MA10-027	
SB12	H13	N-34'-W	650	290	3	1	SP79 SP79 SP80 SB12-1 SB12-2 SP72 SP73 SB12-3	65 65 55 62 64 64 74	59 57 55 57 55 53 58 58	26 63 57 66 53 39 29	Ed		
SB13	H13	N-35'-W	260+	?	1+	?	SP74 SP75	58 77	(47) 59	71	Eg		調査区外
SB14	H13	N-35'-W	290+	?	1+	?	SP26 SB14-1	305 44	65 1400	87 22	Ed		切り合い
SB15	F~G11~12	N-16'-W	400+	430+	1+	1+	SP94L SP95-1 SP10-2	58 75 93	51 55 65	19 14 67	■ ■ ■		切り合い 切り合い

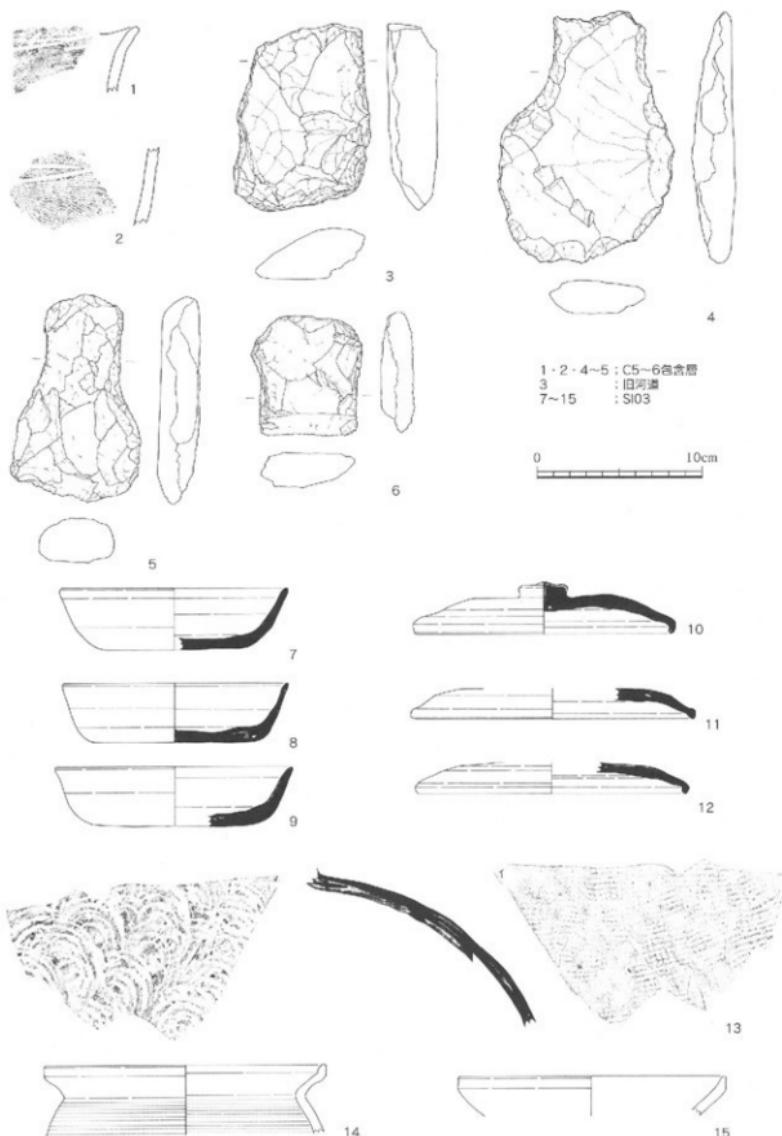
第5表 堀立柱建物－柱間寸法1

1R=30.3m

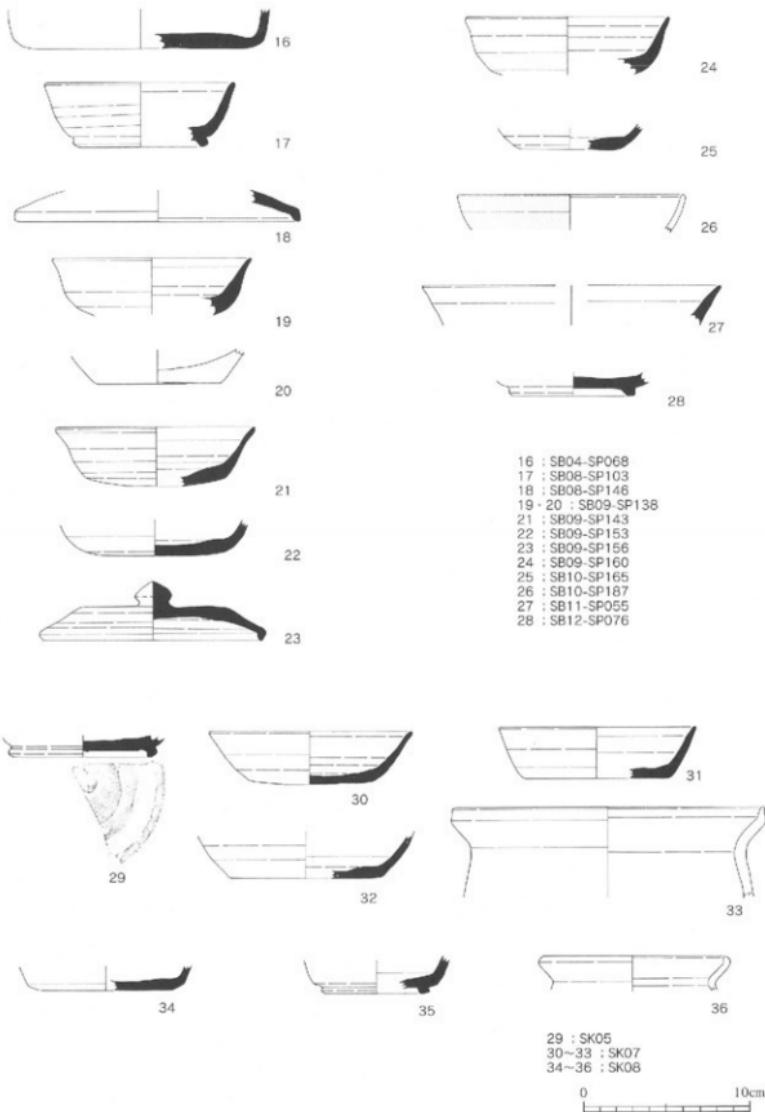
堀立柱建物	柱	柱間 cm	尺	その他
SB01N-S	SB01-1とSP14	220	7.25	
	SP14とSB01-4	260	8.58	
SB01W-E	SB01-3とSP15	230	7.59	SP15は調査区外
	SB01-3とSB01-2	210	6.93	
	SB01-2とSB01-3	190	6.27	
SP02N-S	SP95とSP96	220	7.59	
SD02W-E	SP02-1とSP99	215	7.10	SB02-1は調査区号
	SP99とSP96	225	7.43	
SB03N-S	SP94とSB15-2	160	5.28	
	SB15-2とSP160	190	6.27	
SB03W-R	SP94とSP93	200	6.60	
	SP93とSP90	180	5.94	
SB04N-S	SB04-1とSB04-2	225	7.43	
	SB04-2とSP168	250	8.25	
SB04W-E	SB04-4とSB04-3	275	9.06	
	SB04-3とSP96	220	8.91	
SB05N-S	SB05-1とSP96	170	5.61	
	SP96とSB05-2	185	6.11	
SB05N-S	SB05-1とSP168	220	7.26	SB05-1は調査区外
	SB05-2とSB06-3	95	3.14	
	SB06-3とSB06-4	185	6.11	
SB06W-E	SB06-4とSP99	160	5.28	SP99は調査区外
SB07N-S	SP07-5とSB07-4	155	5.12	
	SP07-4とSP07-3	185	6.11	
	SP07-3とSP126	190	4.99	
	SP125とSB07-2	190	5.28	
SB07W-E	SP07-5とSB07-2	245	8.09	
SB08N-S	SP10とSP128	312	10.30	
	SP128とSP08-1	313	10.33	
	SP08-1とSP163	310	10.33	
	SP14とSB08-2	210	6.93	
SB08W-E	SP150とSP165	360	12.48	

第5表 堀立柱建物－柱間寸法

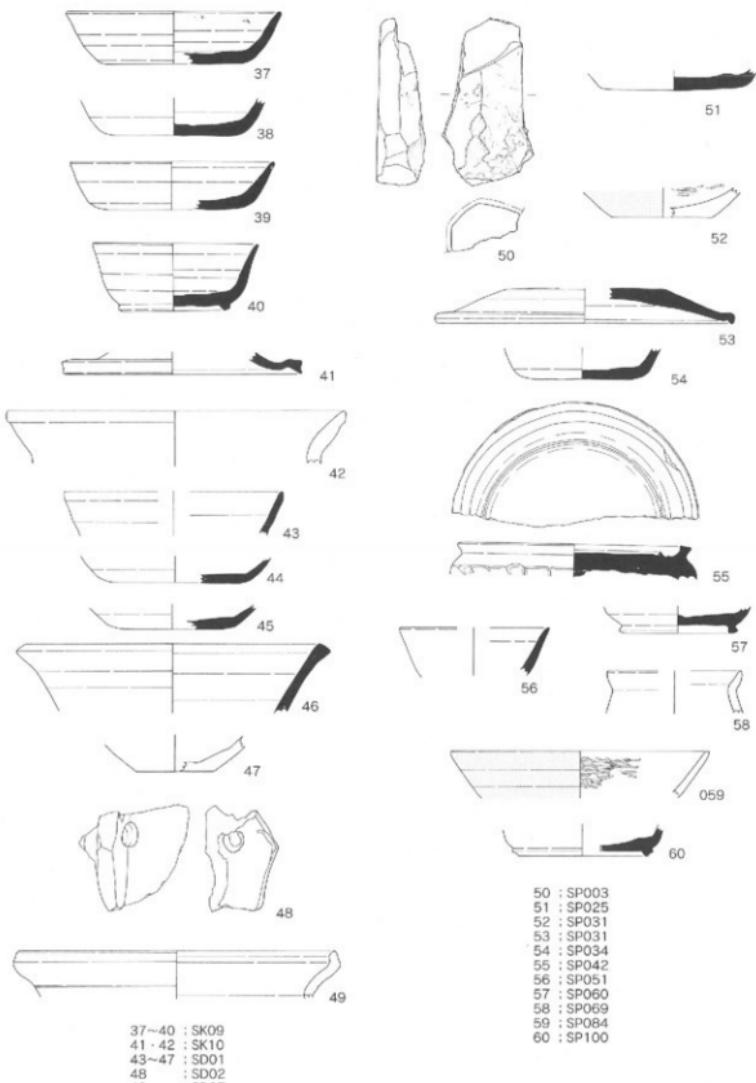
掘立柱建物	柱	柱間 cm	尺	その他
SB00N-S	SP167とSP166	200	6.60	SP167は調査区外
	SP169とSB09-3	225	7.43	
	SB00-1とSP156	175	5.78	
	SP156とSB09-2	140	4.62	
	SB09-2とSB09-3	160	5.28	
	SB09-3とSP168	300	9.90	
	SP148とSP127	220	8.91	
	SP179とSP171	210	6.93	
	SP171とSB09-5	220	7.25	
	SB09-4とSB06-5	190	6.45	
	SB09-5とSP160	190	6.45	
	SP160とSB09-4	160	5.28	
	SB09-4とSP143	310	10.23	
SB00中央	SP143とSP138	280	9.34	
	SB09-7と#1	360	12.05	
	#1と#2	325	10.73	
	#2と#3	290	9.57	
	#3と#4	260	8.58	
	#4とSP140	344	8.05	
SB00W-E	SP167とSB09-7	290	9.57	
	SB09-7とSP179	310	10.23	
	SP140とSP138	310	10.23	
	SP172とSP140	290	9.57	
	SP167とSP162	250	8.25	
SB10N-S	SP182とSP168	290	8.88	
	SP182とSP169	180	5.91	
	SB10-1とSB09-2	240	7.92	SB10-1は調査区外
	SB10-2とSP96	180	5.94	
	SP165とSP169	520	17.15	
SB11N-S	SP97とSB11-3	200	6.60	
	SB11-3とSP156	190	6.27	
	SP96とSB11-2	190	6.27	
	SB11-2とSB11-1	240	7.92	
SB11W-E	SP97とSP96	330	11.55	
	SP95とSB11-1	340	11.22	
	SP90とSP79	215	7.10	
	SP79とSB12-1	210	6.93	
SB12N-S	SB12-1とSP79	225	7.43	
	SB12-2とSB12-3	160	5.28	
	SB12-3とSP73	260	8.58	
	SP72とSP72	260	8.58	SP72は調査区外
	SP80とSB12-2	290	9.57	
	SP70とSP72	240	7.92	
	SP93とSB13-1	180	5.94	
SB14W-E	SP75とSP74	170	5.61	SP74は調査区外
	SP76とSB14-1	180	5.94	
SB14N-E	SP94とSB15-1	430	14.19	
	SB15-1とSB15-2	400	13.20	



第33図 出土遺物実測図1 (S=1/3)

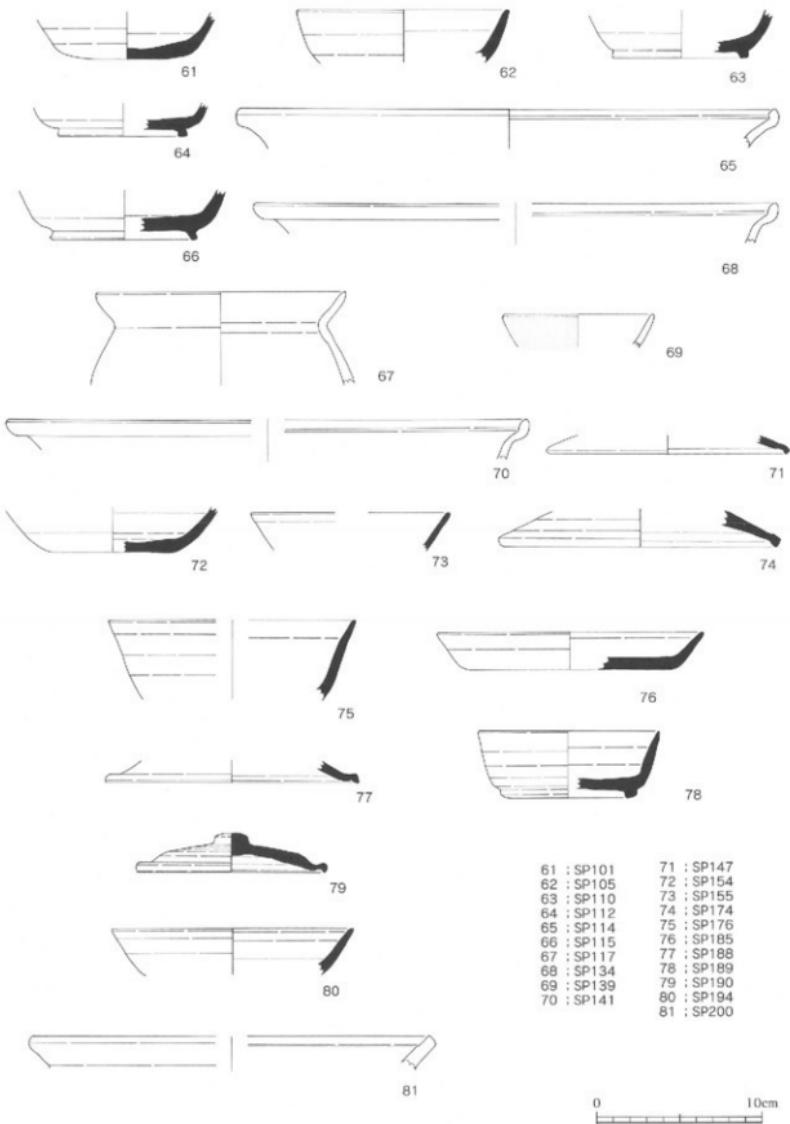


第34図 出土遺物実測図 2 (S=1/3)



0 10cm

第35図 出土遺物実測図3 (S=1/3)



第36図 出土遺物実測図 4 (S=1/3)

第6表 出土遺物観察表1

施設番号	種別	器種	出土地点	口径 mm	底径 mm	高さ mm	遺存状	表面調査	内部調査	外側色調	内側色調	胎土	審査番号	備考
1	陶文上器	深鉢	C5-6包合層							7.5VRA/2	7.5VBU/1	M2, S3	M143	
2	陶文上器	深鉢	C5-6包合層							7.5VRA/2	10VBS/3	M2, S3	M144	
3	石製品	打撲石斧	羽根南	最大長106、幅80、厚30mm、重365g									M145	火山灰質研磨
4	石製品	打撲石斧	C5-6包合層	最大長151、幅105、厚27mm、重500g									M145	火山灰質研磨
5	石製品	打撲石斧	C5-6包合層	最大長129、幅78、厚27mm、重313g									M146	火山灰質研磨
6	石製品	打撲石斧	C5-6包合層	最大長73、幅65、厚21mm、重126.6g									M147	綠色灰岩
7	原毛器	糸輪	SK3	138	85	38	3.5	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	10VBB/2	10VBB/2	M1	M03	
8	原毛器	糸輪	SK3	138	99	37	2.4	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	5V/1	5V/1	M2, S3	M03	
9	原毛器	糸輪	SK3	165	96	37	小片	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	2.5V/1	2.5V/1		M104	
10	原毛器	糸輪	SK3	158	32	55	ロクロナデ	ロクロナデ	5V/1	5V/1	M1, S2	M036		
11	原毛器	糸輪	SK3	173			小片	ロクロナデ	ロクロナデ	N5/0	N5/0	S3	M036	
12	原毛器	糸輪	SK3	164			小片	ロクロナデ	ロクロナデ	2.5V/1	10VBB/1	M1, S2	M037	
13	原毛器	糸輪	SK3				小片	ロクロナデ	ロクロナデ	N5/0	N5/0	S3	M036	
14	土師器	瓦製蓋	SK3	173		17	カキ口	カキ口	5V/7	5V/7	S2	M039		
15	土師器	瓦製蓋	SK3	163		16	ロクロナデ	ロクロナデ	5V/6	5V/6	S2	M039		
16	酒器	SD04-SP068		132		14	ロクロナデ	ロクロナデ	5V/1	N7/0	M2	M113		
17	瓶	SD06-SI1905		115	80	49	1/6	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	5V/1	5V/1	M1, S3	M030	
18	箱形器	瓶	SD06-SP146	125			小片	ロクロナデ	ロクロナデ	2.5V/1	2.5V/1		M049	
19	酒器	瓶	SD06-SP136	121		18	ロクロナデ	ロクロナデ	5V/1	5V/1		M035		
20	土器	瓶	SD06-SP138	75		3.5	ロクロナデ、底ふき口	ロクロナデ	10VRA/4	10VRS/3		M034		
21	酒器	瓶	SD06-SP145	122		16	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	2.5V/2	2.5V/2		M037		
22	箱形器	瓶	SD06-SP148	85		14	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	7.5V/1	7.5V/1	S2	M039		
23	酒器	瓶	SD06-SP195	133	35	16	ロクロナデ	ロクロナデ	N6/0	N5/0		M036		
24	酒器	瓶	SD06-SP160	124		15	ロクロナデ	ロクロナデ	N6/0	N5/0	M2, S3	M035		
25	酒器	瓶	SD10-SP165	58		1.9	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	5V/1	5V/1	S2	M041		
26	土師器	瓶	SA10-SP187	136		小片	ロクロナデ	ロクロナデ	2.5VRS/6	2.5VRS/6		M047	内外赤	
27	瓦製器	瓶	SA11-SP055	182		小片	ロクロナデ	ロクロナデ	2.5V/1	2.5V/1	S3	M119		
28	酒器	瓶	SD12-SP059	78		1.2	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	2.5V/1	2.5V/1	S1	M036		
29	酒器	瓶	SK05	90		1.5	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	5V/1	5V/1	S3	M032		
30	酒器	瓶	SK07	123	33	2.5	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	10VBB/1	2.5V/1	S3	M033		
31	酒器	瓶	SK07	120	87	2.8	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	2.5V/1	2.5V/1	S2	M034		
32	瓦製器	瓶	SK07	92		1.5	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	2.5V/2	2.5V/2	S1	M035		
33	土師器	瓦製蓋	SK07	190		1.6	カキ口	カキ口	7.5VRS/3	7.5VRS/3		M036		
34	瓦製器	瓶	SK08	80		1.4	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	N5/0	N5/0	S3	M037		
35	酒器	瓶	SK08	69		1.6	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	5V/1	5V/1	S2	M038		
36	土師器	瓦製蓋	SK08	119		1.8	カキ口	カキ口	7.5VRC/6	7.5VRC/6	S1	M039	瓦	
37	瓦製器	瓶	SK09	131	85	33	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	2.5V/1	2.5V/1	M1	M030	瓦	
38	瓦製器	瓶	SK09	89		4.5	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	10VBB/2	2.5V/2	S1	M031		
39	酒器	瓶	SK09	124	94	30	1/4	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	N5/0	7.5V/1	S2	M032	
40	酒器	瓶	SK09	102	68	41	2/3	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	N5/0	10VBB/1	L1, S3	M033	
41	瓦製器	瓶	SK10	146		1.8	ロクロナデ	ロクロナデ	N7/6	5V/1	M2, S3	M034		
42	土師器	瓦製蓋	SK10	237		小片	カキ口	カキ口	10VBB/3	10VBB/3	S1	M035		
43	酒器	瓶	SD01	133		小片	ナダ	ナダ	2.5V/1	2.5V/1	M1, S3	M140		
44	酒器	瓶	SD01	83		1.6	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	5V/1	5V/1	M1, S3	M132		
45	酒器	瓶	SD01	26		1.6	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	7.5V/1	2.5V/2	S3	M153		
46	瓦製器	瓶	SD01	182		小片	ロクロナデ	ロクロナデ	5V/1	5V/1	S2	M151		
47	土師器	瓶	SD01	48		1.3	ナダ	ナダ	7.5V/7/3	10VBB/2	M2	M149		
48	酒器	瓦製蓋	SD02			小片	ナダ	ナダ	5V/1	5V/1	M2, S3	M148		
49	土師器	瓦製蓋	SD07	191		小片	ロクロナデ	ロクロナデ	10VBB/4	10VBB/3	S2	M130		
50	石器	砾石	SP006	最大長101、幅63、厚33.8g									M115	
51	瓦製器	瓶	SP005	90		1.2	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	2.5V/1	5V/1	S3	M125		
52	土師器	瓶	SP029	60		1.4	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ、カギ口	5V/2/5	5V/2/5		M128	内黒外赤	
53	酒器	瓶	SP031	183		1.8	ロクロナデ	ロクロナデ	5V/1	10VBB/1	L1, S3	M126		
54	瓦製器	瓶	SP034	69		1.4	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	5V/1	5V/1	S3	M124		
55	瓦製器	円筒陶	SP042			1.2				N7/0	5V/3	M1	M114	
56	酒器	瓶	SP051	92		小片	ロクロナデ	ロクロナデ	2.5V/2	2.5V/1	S2	M118		
57	酒器	瓶	SP060	72		1.0	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	5V/1	5V/1	S2	M029		
58	土師器	瓦製蓋	SP069	82		小片	ロクロナデ	ロクロナデ	10VRS/1	10VRS/1	M2, S2	M116		
59	土師器	瓶	SP069	158		小片	ロクロナデ	ロクロナデ、カギ口	5V/6/5	5V/2/1	S3	M127	内黒外赤	
60	酒器	瓶	SP070	85		1.6	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	5V/1	5V/1	M1, S3	M068		
61	酒器	瓶	SP071	86		1.0	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	2.5V/7/1	2.5V/7/1		M008		
62	酒器	瓶	SP075	132		小片	ロクロナデ	ロクロナデ	10V/1	N5/9	S2	M028		
63	酒器	瓶	SP110	83		小片	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	5V/1	5V/1	S2	M029		
64	瓦製器	瓶	SP112			1/4	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	10V/1	10V/1	S3	M031		
65	土師器	瓶	SP114	414		小片	ロクロナデ	ロクロナデ	10V/7/4	10V/7/3	M1, S1	M060		
66	酒器	瓶	SP115	90		1/5	ロクロナデ、底へら切り	ロクロナデ	N4/0	N5/9	S3	M032		

第6表 出土遺物観察表2

相数 番号	種別	器種	出土地点	口径 mm	底径 mm	高さ mm	進存量	外表面調整	内面調整	外面色調	内面色調	出土	実測 番号	備考
67	上部器	瓦製釜	SP117	152			1/5	漆付	漆付	10YR5/2	10YR6/3	S1	M037	
68	直筒器	环B	SP134		77		小片	ロクロナデ、底へラ切り	ロクロナデ	5Y5/1	5Y5/1	S1	M048	
69	直筒器	环	SP139	92			1/7	ロクロナデ	ロクロナデ	5YR6/4	10YR2/1	S2	M051	内側外赤
70	上部器	瓶	SP141	329			小片	ロクロナデ	ロクロナデ	5YR6/5	7.5YR2/4	S2	M052	
71	直筒器	环C	SP147	148			小片	ロクロナデ	ロクロナデ	7.5Y9/1	7.5Y9/1	S3	M054	
72	直筒器	环A	SP154		78		1/2	ロクロナデ、底へラ切り	ロクロナデ	7.5Y7/1	7.5Y7/1		M040	
73	直筒器	环	SP155	121			小片	ロクロナデ	ロクロナデ	10Y5/1	7.5Y9/1	S1	M043	
74	直筒器	环C	SP174	170			1/6	ロクロナデ	ロクロナデ	2.5Y9/1	2.5Y6/1	S2	M053	
75	直筒器	环	SP176				小片	ロクロナデ	ロクロナデ	N6/0	N6/0	S3	M027	
76	直筒器	环A	SP185	162	125	23	1/4	ロクロナデ、底へラ切り	ロクロナデ	7.5Y5/1	7.5Y5/1	S2	M026	
77	直筒器	环C	SP188	155			小片	ロクロナデ	ロクロナデ	5Y3/1	5Y5/1	S3	M055	
78	直筒器	环D	SP199	119	88	43	1/2	ロクロナデ、底へラ切り	ロクロナデ	N5/0	N5/0	S3	M042	
79	直筒器	环C	SP199	115		24	1/6	ロクロナデ	ロクロナデ	7.5Y6/1	7.5Y6/1	S2	M055	
80	直筒器	环	SP194	148			小片	ロクロナデ	ロクロナデ	7.5Y5/1	7.5Y6/1		M044	
81	下部器	瓶製釜	SP203	252			小片	カキ目	カキ目	10YR7/4	10YR7/4	S1	M045	

(注記) 以上の物数は当該器の初目(「1」)としない場合をすべて復元性である。

遺存量に示した数値は、実測深にあたる範囲内の寸法であり、器体全体に対するものではない。

記載「ヨコナデ～ケズリ」であれば、ヨコナデを行ったのもケズリを行っていることを示す。

記記の場合は同一着目で調整が異なる場所があることを示す。

色調 「5Y5/0以上」色調表示。

網上：「1/2」は断面横径の大きさ。S1(1 mm以下)M1(1 mm～3 mm)L1(3 mm以上)

網底：底面横径の大きさ。0(ほとんど含まれない)1(少しある)2(やや多い)3(多い)

直轄部・上部器の各番号は小治市教育委員会2007～2009(直轄町遺跡II)を参考にした。



調査地遠景(北西から)



A·B区全景



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



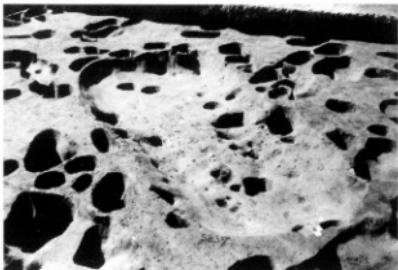
A区 全景(北西から)



B・C・D・E区全景(北東から)



B区 SI01完掘状況(南西から)



C区 SI04完掘状況(東から)



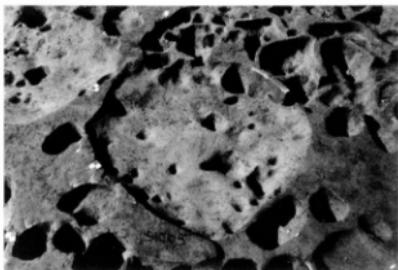
C区 SI02完掘状況(南東から)



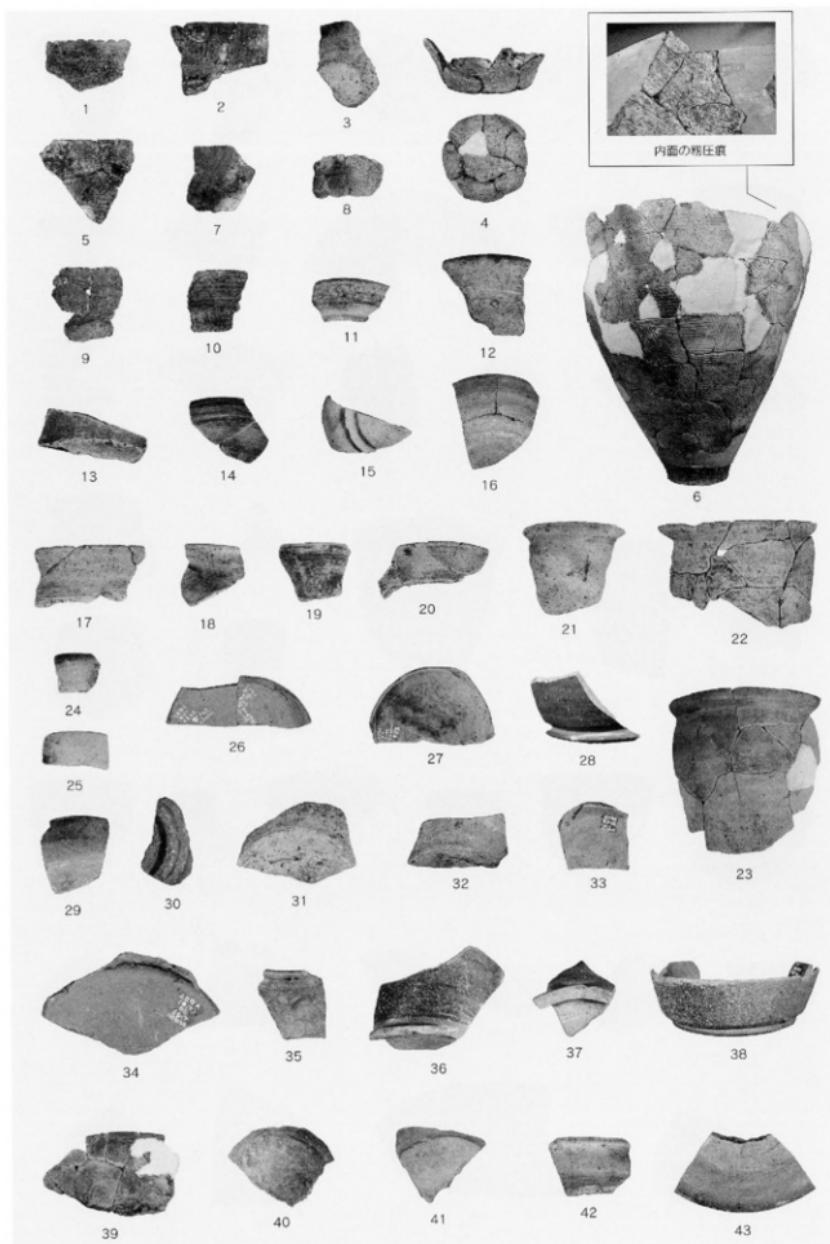
C区 SI05完掘状況(東から)

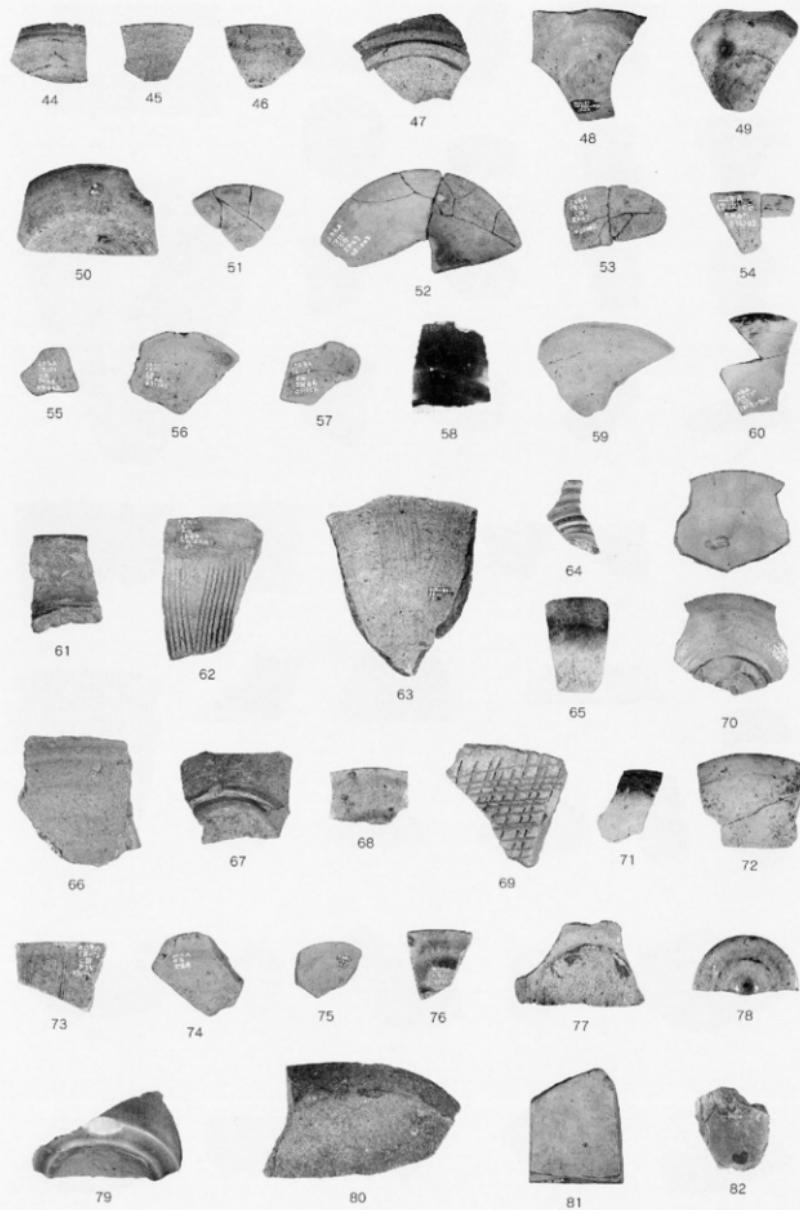


A区 SB03・SI03完掘状況(南から)



C区 SK05完掘状況(南東から)







1～3区全景(上空から、上が南東)



1～3区全景(南西から)



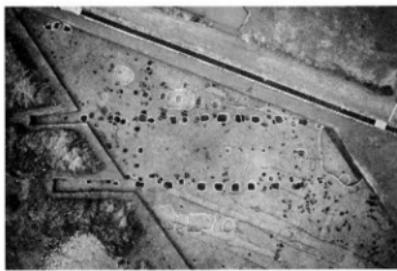
4区全景(上空から、上が北西)



4区掘立柱建物群(上空から、上が北)



5区全景(北東から)



5区SB09(上空から、上が南西)



5区SB09(南東から)



1区完掘状況(北から)



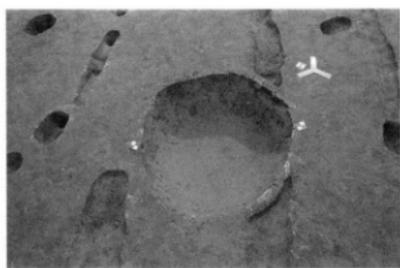
3区完掘状況(北から)



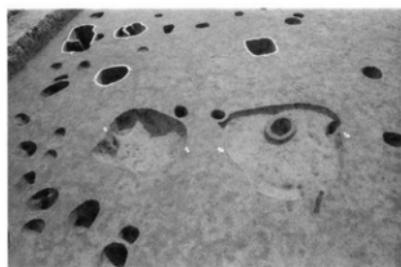
4区SB02~04(南東から)



4区SB12(北西から)



4区SK02(北から)



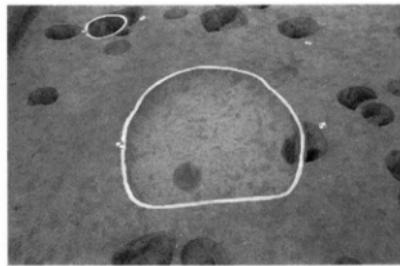
4区SK04(北から)



4区SX03(北から)



4区南半完掘状況(北から)



5区SK05(南から)



1



13



2



14



4



17



21



5



8



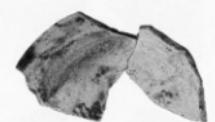
10



23



33



38



39



52



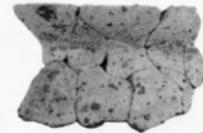
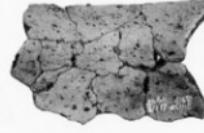
53



55



59



67

48

## 報告書抄録

ふりがな	みつかいち八いせき					
書名	三日市A遺跡3					
商号名						
シリーズ名	野々市市北西部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書					
シリーズ番号	4					
編著者名	横山 貴広 徳野 裕子					
編集機関	野々市市教育委員会					
所在地	〒921-8510 石川県野々市市三郷一丁目1番地 TEL:076-227-6122					
発行年月日	2012年3月30日					
所取遺跡名	所在地	コード				
	市町村	遺跡番号	北緯	東經	発掘期間	発掘面積m <sup>2</sup>
三日市A遺跡 第2次調査	石川県野々市市 三日市町	17344	36° 32' 06"	136° 35' 45"	第2次 2002/05/15～ 2002/12/25	第2次 2,200m <sup>2</sup>
三日市A遺跡 第8次調査	石川県野々市市 三日市町	17344	36° 32' 17"	136° 35' 51"	第8次 2005/04/07～ 2005/1/07	第8次 3,300m <sup>2</sup>
三日市A遺跡 第19次調査	石川県野々市市 三日市町	17344	36° 32' 11"	136° 35' 50"	第19次 2005/07/06～ 2005/11/23	第19次 2,506m <sup>2</sup>
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
三日市A遺跡 第2次調査	集落	古代・近世	掘立建物、溝	土師器、須恵器、近世陶磁器		
三日市A遺跡 第8次調査	集落	古代・中世・近世	堅穴建物、掘立柱建物、堅穴状遺構、溝	土師器、須恵器、中世土師器、中世陶磁器、石製品		
三日市A遺跡 第19次調査	集落	古代	掘立柱建物、溝	土師器、須恵器、石製品		
要約	古代の集落跡を確認し、堅穴建物と掘立柱建物などを検出している。そのうち2×7(8)間の掘立柱建物については石川郡内の研究の可能性がある。 中世については集落跡を確認し、掘立柱建物・堅穴状遺構などを検出した。 近世については溝のみの検出で、自然河道、農業用水として利用されていたようである。					

野々市市北西部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書4

三日市A遺跡3

発 行 日 2012年3月30日

著作権所有 石川県野々市市三納一丁目1番地  
発 行 者 野々市市教育委員会

印 刷 者 石川県野々市市矢作3丁目18  
高桑美術印刷株式会社

三日市A遺跡遺構全体図(第2. 8. 19次)



第2次

第19次

第8次

第8次

